

西村茂樹
述

泰西史鑑 中編 七

和
第一類
第二門
第三號

內閣文庫		
二七一函	二六冊	二四九九號
架	冊	號
		和書類

內閣文庫		
番號	和	14009
冊數	26	(17)
函號	271	523



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



第 第 第
一 一 一
類 門 統



泰西史鑑中編卷之七

佐倉

西村茂樹陰畝

譯

中古ノ史七

第六十八

最後ノ十字軍

法蘭西ノ王聖路易セントルイス

一千二百四十八年

○德意志國ハ一十二百五十六年ヨリ一十二百七十

年ニ至ルマデ所謂政治中絶ノ時ニシテ紀綱法度大

泰西史鑑中編卷之七

壞亂セシガ、法蘭西國ハ路易第九(別号聖王)位ニ在
リテ寛洪慈惠ノ政ヲ行ヒシニ由リ、其國自然ニ隆盛
ノ運ニ向ヘリ。路易ノ母ハ加斯的里王ノ女ニシテ其
名ヲ菩蘭加ト云フ。賢徳ヲ以テ名アリ。路易ノ幼時、菩
蘭加之ヲ教ヘテ深ク罪惡ヲ畏ル、トヲ知ラシム。毎
ニ路易ニ謂テ曰ク、汝若大ナル罪惡一事ヲ犯ス時ハ
必ズ汝ノ位ヲ失ヒ、甚シキハ汝ノ身ヲ失フニ至ルヘ
シト。菩蘭加數子アリシガ之ヲ育スルニ皆己ガ乳ヲ
以テス。路易ノ孩兒タリシ時、甚シク啼号セシトアリ
シカバ、一ノ宮人之ヲ憐ミ、己ガ乳ヲ與ヘテ其啼ヲ止

ム。菩蘭加之ヲ聞キ、其指ヲ孩兒ノ喉中へ挿入シ以テ
宮人ノ乳汁ヲ吐出サシム。路易既ニ長ジ、篤ク神道ヲ
信ジ、博ク事理ニ通ズ。是、母ノ教育ノ嚴正ニ由リシ者
ナリ。路易即位ノ初メ、菩蘭加代リテ政ヲ攝スルヲ數
年、路易成人ト為ルニ及ビ、始メテ政ヲ親ラス。一千二
百四十四年、王病ヲ得テ危篤ナリ、衆醫皆快復ヲ期シ
難シトイフ。國人之ヲ憂ヒザル者ナシ、一日王瞑目シ
テ睡ル。宮人王ヲ以テ己ニ死セリト為シ、帛ヲ以テ其
面ヲ覆フ。王俄然トシテ起テ、天ヲ仰テ謂テ曰ク、上帝
東方ヨリ光輝ヲ放チテ我ヲ照シ、以テ我死ヲ救ヘリ

因テ巴黎^{パリ}ノ教長ヲ召ス。教長召ニ應ジテ至ル。王、
 教長ニ十字ヲ求ム。宮人傍ニ在テ王ノ此誓約ヲ為ス
 一能ハザルヲ疑フ。教長王ノ言ニ從ヒ、十字ヲ以テ
 王ニ與フ。王之ヲ受テ曰ク、吾蘇セリト。數日ノ後王果
 シテ病癒ユ。國人大ニ悦ブ。
 ○王是ニ於テ復十字軍ヲ起シ、以テ聖地ヲ復セント
 ス。自ラ謂ラク、此事ハ非常ノ大業ナレバ畢生ノ力ヲ
 竭シテ之ニ從事セザルベカラズト。因テ大ニ兵甲器
 械ヲ準備セシニ、國民ハ此事ニ心ヲ用フル。王ノ如
 ク激切ナラズ。故ニ四年ヲ經テ其軍備初メテ調整セ

リ。王是ニ於テ國政ヲ其母ニ委託シ。皇后馬加勒^{マルゲリット}及ビ
 其諸弟ヲ伴ヒ四萬ノ軍士ヲ率テ、一千二百四十八年
 八月廿五日、威尼斯^{ヴェニス}ノ海船ニ衆ジ愛厄斯^{アイグス}摩^モ的^テノ港
 ヲリ出帆ス。教長教士等海濱ニ立チ「ヘニクリート」
 トイヘル神歌ヲ誦シ、以テ其行ヲ送ル。法蘭西ノ軍、
 伯羅島^{プロリス}ニ於テ冬ヲ過ゴシ、一千二百四十九年ノ春、帆
 ヲ開テ埃及^{エジプト}ニ向フ。此時巴勒士^{パレスチナ}底^チ納^ナノ地ハ埃及ノ首
 長ノ領スル處ナレバ、先其首長ノ威ヲ挫キ、後ニ聖地
 ヲ復サント欲ス。法蘭西ノ戰船盡ク埃及ノ海濱ニ着
 ン。埃及ノ蘇^{スル}丹^{ダン}首^シ長^チト二戰シテ共ニ之ヲ敗リ遂

達米^{ダミー}的^ラヲ取ル。是ニ於テ回教ノ寺觀ヲ淨掃シ。其中ニ彌撒^{ミサ}ノ經文ヲ誦シ。又曾莫^{ヂーム}ニ於テ大ニ神德ヲ頌スルノ歌ヲ唱フ。

○已ニシテ夏モ半ヲ過シカバ泥祿河漲溢ノ時節ニ近ヅケリ。法蘭西ノ軍達米^{ダミー}的^ラニ在テ河水ノ漲溢ヲ防ガント欲シ其準備ヲ為シテ日ヲ送レリ。此時法蘭西王ノ弟波亞多^{ポアトウ}ノ亞豐蘇^{アルホンヌ}六万ノ兵ヲ以テ來リ加ハリ。撒利不里^{サリスブライ}ノ侯英國ノ騎士ヲ率テ來リ會ス。

○秋ノ終ニ至リ。路易王諸軍ヲ率テ改羅^{カイロ}ヲ攻メントス。泥祿河ノ漲溢未ダ全ク退カザルヲ以テ。大軍之

ヲ渡ルニ甚ダ困難ヲ極メタリ。已ニ進ンテ曼須拉^{マンシュラ}トイヘル小邑ニ至リシ時。忽チ敵ノ大軍ニ逢ヘリ。王ノ弟亞爾多亞^{アルトア}ノ羅伯志^{ロバト}氣過銳諸軍ニ先チテ獨。曼須拉ニ入りシニ。敵ノ襲撃ニ逢テ生擒セラレ。其兵士多ク死ス。撒利不里ノ侯亦大ニ敗レ。死傷太多シ。是ニ於テ敵兵。路易ノ陣ヲ攻撃スルヲ甚急ナリ。王諸軍ヲ指揮シテ勇戦セシカドモ遂ニ支ヘズ。全軍盡ク敗レ退ク。此時法蘭西ノ陣中ハ糧食匱乏シ。加フルニ疫病大ニ行ハレ。兵士ノ難苦言フベカラズ。王亦病ニ罹リ軍ニ臨ム。能ハズ。法蘭西ノ陣營ノ側ニ一小邑アリ。將

上等。王ノ病ヲ慰メント欲シ王ヲ伴フテ邑中ニ入ル。敵兵之ヲ偵ヒ知り、猝然起テ王ヲ襲フ。王及ビ其二弟波亞多ノ亞豐蘇安如ノ甲列共ニ敵ノ為ニ生擒セラ。馬加勒后王ノ屬ト為ルヲ聞キ、敵ノ手ニ死センヨリハ寧ロ我軍士ノ手ニ死セント思ヒ、其騎士ニ命ジテ已ヲ殺サシム。騎士肯ンゼズ。
○撒拉斯人、王ヲ虜ニシタル後、盡ク其從士ヲ逐ヒ、唯一人ノ侍臣ト二人ノ僧徒ヲ許シテ左右ニ給仕セシム。王囚繫ノ中ニ在テ病日ニ重リシカ氏、泰然トシテ少シモ憂愁ノ色ナシ。暴悍ナル敵人モ之ヲ見テ少シ

ク尊敬ノ意ヲ發セリ。王ノ此際ニ在テ精神ノ動乱セザルハ深ク基督教ヲ信ズルニ由ル故ナリ。敵人ハ之ヲ知ラズ、唯曰ク、此人ハ其舉止沈重恰モ吾輩ノ君主ニ似タリ。絶テ吾輩ノ囚徒ニ類セズト、蘇尔丹王ヲ要シテ巴勒斯底納ノ諸邑ヲ返サシメントスルニ及ビ、王之ニ答テ曰ク其地ハ德意志皇帝ト騎士ノ義團ノ管スル處ニシテ、余ガ敢テ關カリ知ル所ニ非ズト、蘇尔丹怒リ王ヲ痛床罪人ヲ拷掠ノ上ニ置カントイフ。王自若トシテ曰ク、余今汝ガ手中ニ在リ、生殺擄縱唯汝ガ欲スル所ノマ、ナリト、蘇尔丹、王ノ患難ニ臨ン

泰西史 卷七

テ畏懼ノ意ナキヲ見テ心ニ之ヲ感ジ。若シ達美的ヲ
 蘇丹ニ返シ。一百万ピサンチール我古貨幣ノ名、大約
 ノ軍費ヲ償ハバ。王及ビ軍士ヲ赦シテ國ニ還ラシメ
 ント云フ。王答テ曰ク。法蘭西ノ國王ハ金ヲ以テ其身
 ヲ償フベカラズ。汝若シ汝ガ欲スル所ヲ求メバ。達米
 的ヲ以テ我身ヲ償ヒ。ピサンチールヲ以テ我軍士ノ
 身ヲ償ハバ可ナラント。蘇丹。王ノ言ヲ以テ常人ノ
 及バザル所ト為シ。共ニ王ノ言ニ從ヒ又償金ノ額ヲ
 減ジテ八十万ピサンチールト為ス。
 ○此和約已ニ成ントスルニ及ビ。意外ノ事變起リ。更

ニ法蘭西王ノ為マニ一ノ困難ヲ生ゼリ。初メ土耳其
 人ノ奴隸ニ馬アラビヤ每路トイヘル民族アリ。埃及ノ蘇丹。
 此民族ヲ雇フテ兵ト為セシガ。馬每路人相與ニ謀リ
 テ亂ヲ作シ。蘇丹ヲ殺シ。己ガ酋長ヲ立テ蘇丹ト
 為ス。新蘇丹ノ暴厲。舊蘇丹ニ勝リ。殺戮ヲ以テ威
 ヲ立テ。路易ニ逼リ強テ騎士リッタルノ位ヲ得ントヲ望ム。謂
 フ若シ騎士ノ位ヲ與ヘズンバ汝ヲ殺サント。王神色
 自若徐カニ答ヘテ曰ク。汝若シ基督ノ教法ヲ奉ゼバ。
 騎士ト為ルコトヲ得ベシト。馬每路人此言ヲ聞テ深ク
 自ラ愧ヂ。遂ニ和議ヲ結バンコトヲ約ス。己ニ約ヲ定ム

ルノ期ニ至リ。馬每路人更ニ異論ヲ發シ。盡ク舊蘇ル
丹ノ約セシ條件ヲ改メント欲ス。王毅然トシテ曰ク。
彼若シ摩哈麥ノ前ニ於テ誓ヲ為セト言ハバ。吾寧ロ
寸斷セラレテ死セン。上帝ニ背クノ一語ヲ發スル
能ハズト。馬每路人盡ク王ノ言フ所ニ從テ約ヲ定ム。
王是ニ於テ達美的ヲ埃及ニ返シ。四十万^ビサ^ンチ^一
ルノ金ヲ馬每路人ニ贈ル。猶殘金四十万^ビサ^ンチ^一
ルアルヲ以テ。王ノ弟亞豐蘇ヲ留メテ質トシ。以テ償
金ノ終ルヲ待タシム。蒙何爾^{モントホルト}ノ疾。王ノ命ヲ受クテ金
ヲ馬每路人ニ與ヘントス。蒙何爾。王ニ謂テ曰ク。我此

夷狄ヲ欺キ一萬^リブル^ス。古量ノ名我百三ヲ與ヘテ
十奴弱ニ當ル
以テ事ヲ了セント。王怒テ蒙何爾ヲ叱シ。約スル所ノ
額ヲ敵ニ贈ラシム。謂フ若シ我言ヲ用ヒズンバ汝ヲ
死刑ニ真カント。

○王是ニ於テ囚繫ヲ脱シテ船ニ乘ズルヲ得タリ。
王猶國ニ還ラズ。直チニ進ンテ巴勒斯底納ニ向ヒ。以
テ其志ヲ果サント欲ス。王是ヨリ亞細亞ノ地ニ在ル
一四年。以テ聖地恢復ノ功ヲ奏セント欲ス。然ルニ王ノ
兵力微弱ニシテ。猛悍ノ夷民ニ勝ツニ足ラズ。王。亞細
亞ヨリ四十万^ビサ^ンチ^一ルノ金ヲ埃及ニ送リ。以テ



俘虜ヲ求ム。初メ法蘭西ノ兵ノ埃及ニ俘虜ト為ル者一萬二千人アリシガ、或ハ敵人ニ殺戮セラレ。或ハ基督教ヲ棄テ回教ニ歸スル者アリ。此時法蘭西ノ陣ニ歸ル者ハ四百人ニ過ギズ。王之ガ為ニ傷惋スル久シ。王、埃及人ノ殘虐ヲ怒リ、時ヲ俟テ其罪ヲ伐ントセシガ、遂ニ志ヲ果スル能ハザリシナリ。王那撒勒ニ至リ、遙カニ聖墓ヲ拜シ、基督教ヲ奉ズル者ヲシテ信隨歡喜ノ心ヲ發セシメタリ。然ルニ此時本國ヨリ訃音至リ、王ノ母菩薩蘭加ノ死ヲ報ゼシカバ、王急ニ兵ヲ回シテ國ニ歸ラント欲シ、航海スルヲ六週日ニシテ馬

塞里セイリ地名ニ達セリ。王國ヲ去ルヲ六年。是ニ至リ生テ再ビ本國ニ還リシヲ以テ國民歡欣シテ出テ迎ヘザル者ナシ。

○路易王國ニ還ルノ後、猶十字軍ヲ起スノ念ヲ絶セズ。其故ハ王嘗テ心ニ誓ヒ、聖墓ヲ復スルノ時ヲ以テ、始メテ志願ヲ了スルノ時ト為セバナリ。一千二百七十年、王國ニ歸ルノ後十六年、大ニ兵馬ヲ發シ、海舶ニ乗ジテ南ニ向フ。王此時病未ダ愈ズ、身体衰弱シテ騎馬スルヲ能ハズ。又甲冑ヲ裝スルヲ能ハズ。初メ突尼斯ノ酋長王ニ約シテ曰ク、若シ大國能ク我民ヲ保護

シテ回教人ノ禍ニ罹ラザラシメバ、我今ヨリ改メテ
基督教ヲ奉ゼント。路易大ニ喜ビ、謂ヘラク回教ノ酋
長ノ為ノニ教爺ト為ルハ、我大ニ望ム所ナリト。教爺
ハ、教親ナリ、異教ヨリ基督教ニ歸スル時ハ先其名ヲ改
メ、教爺タル者基督教法ニテ常用スル所ノ名ヲ以テ
命ス。是ニ於テ法蘭西ノ軍艦盡ク突尼斯ニ向テ進ミ、
舊加達額ノ地ヨリ上陸ス。然ルニ亞弗利加ノ地ハ氣
候炎熱、日光灼クガ如ク、加フルニ其地泉水ニ乏キヲ
以テ、法蘭西ノ兵堪ルヲ能ハズ、又疾疫大ニ陣中ニ流
行シ、六万ノ軍士、數週日ノ間ニ其半ヲ減ゼリ。路易王
屢、兵士ノ陣營ニ入り、病者ヲ問ヒ、死者ヲ吊セシガ、遂

ニ疫氣ニ感ジテ赤痢ヲ病メリ、病大漸ナル所、王其太
子腓立ヲ召シテ丁寧告誡シ、其後教士ヲ召シテ死時
ノ法式ヲ受ク、王ノ信心是ニ至テ益固シ、觀ル者涙ヲ
流リ、バルハナシ。其後灰ヲ臥床ニ撒シ、氣息將ニ絶セ
ントスル時、其手ヲ十字様ニ胸上ニ置キ、天ヲ仰テ、
目シ、大闢ノ經文ヲ唱ヘテ曰ク、嗚呼上帝吾ハ上帝ノ
家ニ入ランコトヲ願フ、吾ハ上帝ノ神殿中ニ崇拜シ、
上帝ノ名ヲ稱賛セシコトヲ願フト、誦聲未ダ畢ラザレ
ニ己ニ瞑目ス。實ニ一千二百七十年八月二十五日ナ
リ、王ノ弟甲列完安如、西齊里ヨリ船ニ乘ジテ此地ニ

或ハ別ニ志ヲ所アリテ教法ノ名ヲ假リテ之ヲ行フ
トモアリ、西班牙ト亞弗利加ニ在ル摩爾人ヲ伐テ、黎
弗蘭人、普魯士人、及ビ其他ノ異教ノ民ヲ征シ、基督教
ニ背ク民、殊ニ羅馬教王ノ命ヲ奉ゼザル所ノ王族ヲ
撃ツガ如キトハ即チ是ナリ。

第六十九

○德意志ノ兵ハ其初メ多ク歩兵ヲ以テ編制シ、騎兵
ノ數ハ甚稀ナリシ。其騎兵ハ皆兜鍪ヲ戴キ、甲鎧ヲ據
シ、長槍ト長劍トヲ執レリ。此軍装ヲ為スニハ其費少

ナカラザルガ故ニ、惟富民ノミ能ク騎兵ト為ルヲ
得タリ、已ニシテ國民皆騎兵ヲ貴ブノ風ト為リシカ
ハ、豪家右族ハ皆騎兵ト為リ、以テ卑賤ナル歩兵ト區
別セントヲ求メ、是ヨリ漸々貴族ノ一種ヲ造リ出セ
リ、騎兵等自己ノ權ヲ保守シ、或ハ其權ヲ増進セント
欲スルノ心ヨリシテ、凡ソ騎兵ノ家ニ生ルハ者ハ切
ヨリ軍事ニ通曉スルヲ以テ職分ト為ス、其第一ノ務
ムル處ハ身体ノ強健ト武術ノ鍊磨ナリ、智識ヲ開キ
技藝ヲ習フ等ノトハ棄テ顧ミズ、故ニ此頃ノ貴族タ
ル者ハ、悍馬ニ乘リ槍劍ヲ擊刺スルノ術ハ、幼ヨリ學

ブ所ナルヲ以テ皆能ク鍛鍊習熟スル也。學問ノ教育
ナキガ故ニ、自ラ姓名ヲ記スルヲ能ハザル者多シ。德
意志ノ語ニ騎馬ヲ「ライテン」トイフヨリ、騎兵ヲ稱シ
テ「リッテル」ト云フ。

○其後年ヲ經ルニ從ヒ、此騎兵ナル者一種ノ民族ノ
形ヲ為シ、之ヲ騎族又騎士ト名ク、敬神、知恥、勇剛及ビ
婦人ヲ防護スルヲ以テ騎士ノ四徳ト為ス。騎士ト為
ラントスルニハ多年ノ學習ヲカルベカラズ。其騎士
ト為ル時ノ儀式ハ教門ノ法式ヲ加ヘテ之ヲ行ヒ、其
儀頗ル盛ナリ。凡ソ名族ノ子生レテ七歳ナル時ハ、之

ヲ一騎士ノ家ニ送リテ其業ヲ學バシム。其子騎士ノ
家ニ在リテ常ニ其主人ニ仕ヘ、又其主人ノ妻ノ側ニ
在テ其舉止ヲ觀ル。此間物ニ畏怖セザルヲ以テ騎士
ノ徳ノ根原ト為シテ之ヲ學ブ。其常ニ務ムル處ハ主
人ノ為ニ食茶ニ給仕シ、兵器ヲ淨掃磨礪シ、騎馬ノ時
ニ馬鎧ヲ執リ、又擊刺、射術、騎術ヲ學ビ、軟弱ノ身体ヲ
鍊鍛シテ堅強捷疾ノ人ト為ラシム。年十四歳ニ至レ
バ劍帶ヲ與ヘテ劍ヲ佩ビシム。是ヨリ名ケテ「カナ
バトイフ」。既ニ「カナバト」為リシ後ハ、其主人ニ從テ
或ハ獵シ、或ハ祭事又ハ武技ノ場、其他主人ノ出ル所

新田氏 中興卷

ニハ必ズ從テ出ヅ故ニ其主人戰ニ出ルキハ又從テ
戰場ニ赴クカナーベタル者ハ其主人ニ忠義ヲ盡ス
ヲ以テ第一ノ務トス。戰場ニ於テ己ガ干盾又ハ劍戟
ヲ以テ其主人ノ危急ヲ救フヲ以テカナーベタル者
ノ卓越ノ名譽ト為ス。

○カナーベタル者年二十一歳ニ至レバ初メテ任ゼ
フレテリツテ^ル騎士ト為ルヲ得ベシ。凡ソカナー
ベノ騎士ニ任ゼラルハノ前、先ツ齋戒沐浴瞻禮ヲ行
フテ其心身ヲ淨潔ニシ、教門ノ法式ヲ受ケ、己ニ騎士
ト為ルノ前夜ハ、甲冑ヲ撰キ兵器ヲ執リ以テ其夜ヲ

徹ス、夜既ニ明レバ儀裝ヲ盛ンニシテカナーベヲ禮
拜堂ニ尊ク、此日ハ少年タル者生涯第一ノ榮日ナリ
己ニ禮拜堂ニ至レバ、他ノカナーベ此少年ニ甲冑ヲ
帶セシノ、戰棍、干、劍ヲ授ケ、貴族ノ婦人之ニ兜ト^鞋踏
劍帶ヲ與フ、是ニ於テ少年、祭壇ノ上ニ跪キ誓テ曰ク、
爾後必ラズ誠實ノ言ヲ發スベシ、正直ノ道ヲ踏行フ
ベシ、神道ヲ崇敬シ、上帝ニ服事スベシ、凡ソカ弱キ者
無罪ノ者、及ビ寡婦孤兒ハ之ヲ保護スベシ、婦人ニ恥
辱ヲ與フルコト勿ルベシ、異端邪說ヲ奉ズル者ハ盡ク
之ヲ驅斥スベシト、誓畢レバ、騎士又ハ貴家ノ婦人、手

ツカテ、少年ニ鞋踢、手套、甲鎧ヲ授ク。少年再ビ騎士ノ
前ニ跪ク。騎士劍ヲ抜テ、劍ノ側面ヲ以テ少年ノ額
ト肩トヲ打ツ。三次、是ヨリ「カチー」ベテ改メテ騎士
ト稱ズ。是ニ於テ傍人此新騎士ニ、兜ヲ被ラシメ、看ト
槍トヲ執ラシメ、又馬ヲ與ヘテ之ニ乘ラシム。此新騎
士此馬ニ跨リ、看人ノ羣ヲ馳突シテ、騎ヒ去ル。是ヨリ
大ニ宴ヲ開キ以テ此式ヲ畢ル。己ニ騎士ト為リタル
後ハ、決シテ他人ヨリ恥辱瑕疵ヲ受ガルコト為ス。騎
士タル者互ニ相怒ルルハ、單身格闘シテ雌雄ヲ決シ、
神罰ヲ定ム。騎士他人ヲ呼テ挑戦セントスル時ハ、其

手套ヲ脱シテ其人ノ前ニ抛ツ。

○騎士若シ甲冑ヲ全装シテ盛孔ヲ閉ル時ハ、其誰人
タルヲ知ルコト能ハズ。戦闘ノ際必ラズ其人ヲ知ラザ
ルベカラザルガ故ニ、外面ニ徽章ヲ施シテ之ヲ辨識
シ易カラシム。其徽章ハ盾上ニ種々ノ圖ヲ画ク。以
テ法トス。其圖ニハ獅アリ、鹿アリ、熊アリテ、十字軍ノ
起リシ以來ハ、十字ノ形ヲ數様ニ画キ以テ之ヲ用ル
ル者多シ。後世ノ紋印ナル者ハ、其原委ニ起ル。騎士タ
ル者戰場ニ於テ故羣ノ勇ヲ顯ハス。人其紋印ヲ
認メテ其勇者ナルコトヲ知ル。此故印父ヨリ子ニ傳ヘ

遂ニ其家世及ノ章ト為ル。然ルニ世ヲ歷ルニ從ヒ、其一家ノ者ハ數人同ジ紋印ヲ用ヒテ辨識ニ難キヲ以テ、其家ノ支流ノ者ハ、別ニ小ナル紋印ヲ堯上一着ク、是ヲ小貨ト名ク、故ニ戰場ニ於テ騎士ノ名ヲ知ラント欲セバ、其盾ト堯ノ紋印ヲ見テ容易ニ之ヲ識別スルヲ得ベシ。

○大小ノ籍土、子孫世及ノ地ト為リシヨリ、建、即、封、騎士タル者ハ土地ノ名ヲ以テ自ラ命ズ、舊時ハ唯前名ノ之ヲ以テ自ラ稱ジ、前名トイフハ我邦ノ名トシ、西人ハ名ヲ前ニ稱スルヲ以テ前名ト稱ス、若弗黎等トノ之稱セリ、此法ハ方今西旺

牙ニテハ猶之ヲ用フル者アリ、土地ヲ以テ世及トセシヨリ、其居ル所ノ城寨又ハ有スル所ノ土地ノ名ヲ以テ姓ト為シテ之ヲ名ニ加フ、ハ、ス、グ、哈伯斯堡ノ羅德福補倫ノ若弗黎ノ如キ是ナリ、

○十字軍ノ此ハ、騎士ノ最モ盛ナル時ナリ、此時騎士等相與ニ聚合シテ義團ヲ結ビシ、ハ精舎ノ義團ニ同ジ、騎士ノ義團ニアリ、一ヲ約翰ノ義團トイヒ、二ヲ神殿ノ義團トイヒ、三ヲ德意志ノ義團トイフ、一千零四十八年下伊大利ノ亞馬非ノ商人等、聖墓ノ傍近ニ於テ精舎ト病院トヲ建立シ、行賽者ノ病ニ罹リシ者

ト貧困ニシテ衣服ノ資ナキ者トヲ其中ニ置キ價ヲ
受ケズシテ治療ヲ施シ衣食ヲ與ヘ以テ之ヲ養フ。哆
百^{セル}ノ聖約翰諸人ニ推舉セラレテ此精舎ト病院ノ
首長ト為ル。是ヲ約翰ノ義團ノ始メトス。又此義團ヲ
一ニ病院ノ義團ト称セシハ其初病院ヨリ起リシヲ
以テトリ其後諸方ヨリ多ク此病院ヲ助クル者アリ
テ一時其盛大ヲ極メシハ衆人希望ノ外ニ出タリ。
○十字軍ノ耶路撒冷ヲ取りシヨリ聖約翰ノ義團ノ
中ニ於テ其職掌ヲ分ツテ三ト為ス。一ハ騎士。二ハ教
士。三ハ看護者ナリ。教士ハ總テ教法ノ事ヲ行ヒ看護

者ハ病者ヲ看護スルヲ以テ職トス。騎士ハ常ニ兵器
ヲ執テ馬ニ上リ土耳其人ノ侵暴ヲ防デ行賽者ヲ保
護ス。益シ此時ノ風傷者ヲ療スルヨリ傷ヲ受ケザラ
シムルヲ以テ貴シトスレバナリ。此義團ハ其衆心ノ
固結セルト騎士ノ勇剛ナルトニ依テ能ク撒拉斯人
ニ抗敵シテ久シク屈撓セズ。回教ノ徒聖地ヲ奪フニ
及ビ此義團去リテ居伯羅島ヲ保チシガ一十三百十
年ニ至リ居伯羅ヲ棄テ羅得島ニ據ル。聖約翰ノ義團
此島ニ在テ土耳其人ノ猛威ニ抗敵スルト二百餘年
以テ其武名ヲ海上ニ耀カセリ。然レモ衆寡敵セズ義

團ノ勢漸ク挫折セシカバ、一千五百三十年德意志ノ皇帝甲列第五、^{マルタ}馬爾達島ヲ與ヘテ之ニ遷ラシム。是ヨリ改メテ馬爾達ノ義團ト稱ス。拿破崙^{ボレオソ}法蘭西ノ首領ト為リ、一千七百九十四年、兵ヲ發シテ埃及ヲ撃シ時、此島ヲ攻テ之ヲ奪フ。其後二年、英吉利人、此島ヲ法蘭西人ノ手ヨリ奪ヒ、遂ニ自ラ之ヲ領シテ約翰ノ義團ニ返シ與ヘズ。是ニ依テ義團ノ徒四方ニ散シテ各其生計ヲ營メリ。然レモ義團ノ名ハ久シク之ヲ失ハズ。
○^{テムプルー}神殿ノ義團ハ十字軍ノ耶路撒冷ヲ取リシ後始メテ建立ス。一千一百十八年、九人ノ騎士志ヲ合セ、土耳

其人ノ侵暴ヲ防ギ行賽者ヲ導キテ巴勒士底納ニ至ラシムルノ趣意ヲ以テ此義團ヲ創メタリ。耶路撒冷ノ王巴哆非此義團ニ住居ノ地ヲ與フ。其地ハ昔頃羅門王ガ嘗テ神殿ヲ造立セシ地ナルニ由リ此義團ヲ稱シテ神殿ノ義團ト云フ。其後此義團ニ入ル者大ニ増加シ、殊ニ法蘭西人多ク此中ニ入り。其中ニ富饒ノ者モ多カリシカバ、此義團急ニ其富ヲ致シ、其所有ノ土地甚廣大ナリ。法蘭西ノ王腓立第四、此義團ノ勢ヲ妬ミ其富ヲ羨ミ、計ヲ以テ之ヲ亡ボサントス。因テ義團ノ徒大罪アリト誣ヒ、一千三百零七年、一夜ノ中ニ

泰西史鑑 中編卷七 十七

盡ク此義團ノ徒ヲ囚フ。王此義團ノ徒ニ迫リ。教祖受
刑ノ圖ニ唾シ。足ヲ以テ之ヲ踏ミ。偶像ヲ崇拜シ。男色
ヲ行ヒ。魔術ヲ奉ズル等ノ罪アリト自首セシメ。肯カ
ザル者ハ痛床ニ上セテ之ヲ拷掠ス。王更ニ教王克勒
綿第五ヲ接テ己ガ黨ト為シ。道非内ノ維也。納ニ教門
ノ會議ヲ開キ。以テ此義團ノ徒ヲ罰セシム。義團ノ騎
士五十四人。之ヲ痛床ニ上セテ鞫問ス。凡。絶。以上
ノ諸罪ヲ犯セシトイフ。教王怒テ恚ク之ヲ焚
殺ス。義團ノ首長摩麗モ亦訊鞫ヲ受シガ。數件ノ惡事
一モ知ル處ニ非ズト云シヲ以テ亦焚殺。刑ニ行ハ

ル。摩麗ガ積薪ノ上ニ坐スル時觀ル者嘖々相語リテ
曰ク。此人必ラズ一年ノ内ニ於テ教王ト法蘭西王ト
ノ罪惡ヲ上帝ノ前ニ訴フベシト。摩麗ノ焚殺サレシ
ハ一千三百十四年三月十八日ノ事ナリシガ。此年四
月十九日教王克勒綿死シ。十一月二十九日法蘭西王
腓立第四没セリ。民言果シテ信ナリシハ亦一奇ト稱
スベシ。是ニ於テ神殿ノ義團滅亡シ。其財産ノ大半ハ
法蘭西王ノ有ニ歸シ。小半ハ聖約翰ノ義團ノ有ト為
レリ。

○斯奔達那スボンダイノ一十五百年代ノホ
ノ説ニ曰ク。神殿ノ義

團ノ徒ハ實ニ腓立王ノ擬定セシ如キ罪ヲ犯セシ者
 アレバ、維也納ノ會議ニ於テ命ゼシ罰ハ之ヲ受ケザ
 ルヲ得ザルノ理アリ。又義團ノ首長摩麗モレイガ上帝ノ前
 ニ、二人ノ罪ヲ訴ヘシトイフハ、後人ノ虚説ニシテ、當
 時ノ史家一モ其事ヲ記セシ者ナシ。此事ヲ記セシハ
 蓋シ段ダン的一イチ伊イ太利タイノ詩人ナルベシ。此人ハ教王及ビ
 法蘭西人ニ歎カク枕シテ其説ヲ立シ人ナリト。
 ○德意志ノ義團一名馬利マリノ義團ハ、其始メハ亦十字
 軍ノ時ニシテ、一千一百九十年、德意志人ノ創立スル
 所ナリ。故ニ此義團ハ、神殿ノ義團ニ後ル、一七七十二

年ナリ。義團ノ徒ハ盡ク德意志人ニシテ、皆妻ヲ娶ル
 一ナシ。義團ヲ結ビシ趣意ハ、行賚者ヲ守護指導シテ
 其志願ヲ達スルヲ得セシメ、兼テ千戈ヲ執テ敵
 ヲ討伐スルニ在リ。撒拉斯人再ビ聖地ヲ奪フニ及ビ、
 此義團避テ威ウエ尼ニ斯シニ遷リ、一千二百二十九年撒サル爾ル刷ラ
 ノ赫爾曼大首長タリシ片、波蘭人、德意志ノ義團ヲ招
 キ、助ケテ普魯士人ト戦ハシム。此時普魯士人ハ猶異
 教ヲ奉ゼリ。義團ノ徒之ト兵ヲ交フルヲ五十年ノ久
 シキニ及ビ、遂ニ波蘭人ト共ニ普魯士ノ地ヲ取り、強
 テ其民ヲシテ基督ノ教法ヲ奉ゼシム。一千三百零九

年馬利山マリスヲ以テ大首長ノ居所ト定メ、第十七世ノ初
巴郎丁堡アラバドンノ疾亞伯勒アブラハム義團ノ大首長タリシ片路場ハチリ
新教ニ歸ス。義團ノ徒從テ之ニ歸スル者多シ。其之ヲ
不可ナリトスル者ハ去テ威敦堡ウエルデンノ麥尔然岱メルゼントイヘ
ル小邑ニ遷ル。一千八百零九年。維也納ノ和議ノ時、議
シテ此義團ヲ廢ス。

○凡ソ騎士ノ最モ樂ミトスル處ハ假戰ハルイノ戲ナリ。此
戲ハ兵士各廣場ニ於テ單身格闘ノ技ヲ為シ。以テ勇
氣ノ優劣ト武術ノ精粗トヲ試ム。觀ル者其勝敗ノ狀
ヲ評シ。騎士ノ品等ヲ論ズ。此戲ヲ演スルハ國王ノ即

位。太子ノ誕生及ヒ婚姻ノ如キ大禮アル時ニ之ヲ行
フ。之ヲ演スル時ニ當リ。王族等各許多ノ金錢ヲ擲チ
以テ其儀ヲ盛ニス。騎士ノ此戲ヲ為サントスル者
ハ先假戰ノ管事ノ許ニ至リ。己ガ姓名ヲ帳簿ニ登記
ス。而シテ此戲ヲ為ス者ハ其身ヲ持スル方正ニシテ
他人ノ誹謗ヲ受ザル者ニ非ザレバ出テ場ニ登ルコ
能ハズトス。故ニ此戲ヲ為スノ前。騎士先ヅ己ガ甲冑
ヲ出シテ。他ノ騎士及ビ貴婦人ヲシテ之ヲ點檢ヒシ
ム。又其馬戟劍ノ如キモ同ク點檢ノ為メニ之ヲ人ニ
示ス。

○德意志ニ於テハ假戰ノ場ハ市場ノ内。又ハ都府内ノ他ノ廣闊ナル地ニ之ヲ開ク。法蘭西ニ於テハ都門ノ外ノ空地ニ之ヲ開ク。場ノ周圍ハ二層ノ樊籬ヲ造ラシ。樊籬ノ側ノ地ハ中央ノ地ヨリ高クシ。以テ看入技ヲ觀ルノ所ト為ス。其内ニ王侯及ヒ貴家ノ婦人。高位ノ人ノ觀場ハ。最モ平人ノ觀場ヨリ高ク之ヲ造レリ。

○古代ノ史家、此演戲ノ狀ヲ記スルヲ極メテ壯ナリ。其場ヲ開クノ前、先ヅ鼓聲喇叭ト相應ジテ起ル。是ヲ騎士場ニ至ルノ報ト為ス。是ニ於テ騎士嚙ヲ按ジテ

場ニ入ル。鎧甲日ニ耀キ盛上ノ羽毛風ニ舞フ。騎ル所ノ馬口ニ沫ヲ啗シテ徐ニ歩ム。已ニシテ軍使呼テ曰ク、當ニ技ヲ試ムベシト。喇叭手之ニ忘ジテ攻撃ノ喇叭ヲ吹ク。騎士ノ馬之ヲ聞テ忽チ奔騰ス。騎士直チニ槍ヲ横タヘ疾驅シテ戰ヲ始ム。其突ク所ノ槍尖敵馬ノ左耳ヲ過ギ敵手ノ右腕ノ下ニ中ルヲ法ト為ス。此時ハ騎士ノ用フル槍ハ守兼槍ナリ。其時騎士固ク己ガ馬鎧ヲ踏ミカハ極メテ敵手ヲ擠シテ馬ヨリ落ス。或ハ己ガ槍尖敵手ノ甲ニ中リ其鋒ヲ折ルヲアリ。敵手ヲ馬ヨリ墜シ。又己ガ槍尖ヲ折ル者ハ共ニ勝利ヲ以テ論ズ。此時敵手



ノ槍尖毫モ損傷ナキ者ハ負敗ノ微ト為ス。騎士若シ
 其槍ヲ折ルキハ更ニ新槍ヲ以テ之ニ易フ。其最モ善
 ク戦フ者ハ一日ニ五十槍ヲ易ル者アリ。第一番ノ戦
 終ル時ハ、第二番ノ者出テ場ニ上ル。此ノ如ク漸々更
 番シテ以テ畢リニ至ル。假戦ノ戲ハ、大抵三日ヲ連ヌ
 ルヲ常トス。或ハ稀レニ一週日間連續スルヲアリ。又
 演技ヲ望ム騎士ノ數甚ダ多キ時ハ、兩敵隊伍ヲ為シ
 テ其戲ヲ演スルヲアリ。
 ○演技全ク畢ル時、樂手音樂ヲ奏シ、大聲ヲ以テ勝者
 ノ名ヲ呼ブ。勝者はニ於テ、進ンデ貴婦人前ニ至リ。

手ツカラ賞擧ノ物ヲ受ク。其物ハ、盃、劍、金鎖、金銀等
 ナリ。此賞ヲ受テ歸ル時再ビ音樂ヲ奏ス。其後諸民勝
 者ヲ圍擁シテ城中ニ導ク。貴婦人等此所ニ在テ又勝
 者ノ為メニ重甲ヲ解キ、別ニ美麗ナル衣服ヲ装ス。晚
 ニ至レバ大ニ饗筵ヲ開キ、舞跳シテ相樂シム。其時勝
 者ハ食案ノ上座ニ坐シ、舞跳ノ時ハ最初ニ場ニ上ル。
 ○然ルニ此假戦ノ戲ハ、屢騎士ノ為ニ危害ヲ為ス。一
 アリ、較技ノ際騎士重甲ヲ装シテ馬ヨリ墮チ、或ハ頸
 骨又ハ腕骨ヲ折傷スルヲアリ。又其闘戦ノ時、敵手ノ
 為メニ重傷ヲ被ハルヲアリ。甚シキハ刺撃セラレテ

直チニ死ニ至ル者アリ。一千五百五十九年、法蘭西ノ
王顯利第二、假戦ノ戯ヲ為シテ右眼ヲ突カレ、遂ニ其
創ヲ以テ致セリ。又騎士敵手ヨリ創ヲ受ル時、深ク之
ヲ怒リ、必ス其怒ヲ報ゼントスル者アリ、此ノ如キ時
ハ假戦ノ場忽變ジテ流血ノ地ト為ルヲアリ、一千二
百四十年乃斯ノ假戦ノ時ハ、騎士少年ノ闘死スル者
六十人、一千四百零三年、達尔摩斯達ニ於テ佛朗哥尼
ノ騎士ト黒西ノ騎士ト挑ミシ假戦ハ、真ニ一面ノ戦
場ト為レリ、教門ノ徒ハ深ク此假戦ノ戯ヲ惡シ、神ヲ
蔑スルノ所行ト為シ、假戦ノ場ニ於テ闘死セシ者ハ

基督ノ教儀ヲ以テ之ヲ葬埋スルヲ許サズ、

○騎士ハ平日其城中ニ於テ驕奢放肆ナルヲ小國王
ノ如シ、騎士ノ中ニ於テ常ニ互ニ伴ヲ結ビテ相交リ、
若シ他伴相會シ飲酒シテ相樂ムヲ見ル時、直チニ坐
ニ入り、己ガ勇剛ノ所行ヲ語り以テ他伴ヲ壓倒ス、又
貧窮ナル騎士ハ、常ニ己ガ少年ヲ伴ヒ、馬ニ乘リテ諸
處ヲ周廻シ、他ノ騎士ノ家ニ入り、或ハ食ヒ或ハ飲ミ、
又往昔ノ希臘ノ英雄黒古列約孫德修ノ如ク、危険ヲ
行ヒ、以テ奇功ヲ求ムルヲ好ム、故ニ此ノ如キ者ヲ
浮游ノ騎士ト名ク、此騎士ノ所行ニ就テハ或ハ異形

ノ長人ト戦ヒ、或ハ兇惡ナル魔神ヲ撃チ、或ハ火ヲ噴
ク處ノ龍地ヲ殺ヒシ等ノ奇怪ナル説話多シ、
○騎士タル者ハ多ク已ガ身位ノ尊キヲ忘ル、暴闘
劫掠ヲ以テ生トスル者多シ、凡ノ巖峭壁ノ上ニハ
騎士必ラズ堡寨ヲ結ビ、若シ行人ノ其下ヲ過グル者
アレバ、商旅土人ノ差別ナク出テ之ヲ切シ、其行囊貨
物ヲ奪ヒ去ル、又大河ノ濱ニモ多ク堡寨ヲ營ミ、商船
ノ過グルヲ見ルヤハ、出テ之ヲ脅シ、迫リテ税金ヲ納
メシム、方今ニ至リテモ、萊因瑪斯^{ラインマース}兩河ノ濱ニハ猶此
堡寨ノ遺墟ノ存セル者アリ、農商行旅皆騎士ノ暴虐

ヲ患ヒ、之ヲ禁遏センコトヲ望ムト雖ヒ、皇帝ノ力微弱
ニシテ之ヲ制抑スルコト能ハズ、騎士ノ此ノ如ク暴横
ヲ極メシハ殊ニ拳法^{ケンポフ}ノ時ヲ甚シトス、拳法ノ一ハ上
文已ニ之ヲ記セリ、第三十六節根拉德火藥ノ發明
以來軍制兵法大ニ一變シ、是ヨリ騎士ノ威權大ニ衰
ヘタリ、

第七十

中古ノ時ノ通覽

○史家中古ノ史ヲ記シ、此處ニ至リテ筆ノ歩ヲ停メ、
中古ノ初ヲ回顧スルニ、此數百年ノ間ハ最モ治亂興

泰西史鑑 中編卷七 廿四

廢ノ事迹ニ富メル時トスベシ、初メ國民ノ大遷徙アリテ東北ノ民多ク西南ニ移リシヨリ、歐羅巴ノ諸國大混亂ヲ生ジ、加魯令ノ家其威勢ヲ増シ、殊ニ^{カリ}甲利曼大王ハ一笏ヲ以テ威令ヲ全歐羅巴ノ北部ニ施セリ、此時基督ノ教法亦歐羅巴ノ北部ニ弘行セシニ、東國^{東羅馬}マニテハ却テ耶穌基督ヲ以テ神聖トスルヲ嘲リ、凡ソ天地ノ間唯一真宰一靈魂アルノ説ヲ主張スル者アリ、是ヨリ謬迷ノ論說競ヒ起リ、其甚シキニ至テハ亞利安派ノ一道士、一説ニ業斯多流ノ派ナリトイフ、怪妄狂誕ノ説ヲ唱へ、皇天上帝ノ意ヲ承ケ基

督ノ教法ヲ驅ツテ東國ノ地及ビ耶路撒冷ノ地ヨリ放逐ストイフニ至ル、東羅馬國ニ於テ、屢、教事ノ會議ヲ開キ、以テ此怪誕ノ説ヲ為ス者ヲ罰セント欲ス、然レモ民ノ迷謬滋甚シク、遂ニ全ク神子基督ノ靈魂トイフヲ知ル者ナキニ至リ、其終リハ偶像破壞ノ暴舉アルニ至ル、何修該路拉留出ルニ及ビ、羅馬ノ教法分裂シテ別ニ一派ノ教門ヲ創立スルニ至レリ、○佛即克ノ家宰小北賓ノ時、教王初メテ羅馬ノ地、^{ラウエン}ラ威那ノ地トヲ得テ自ラ領セリ、然レモ此時ハ教王唯藉君ト為リテ此地ヲ所有セシノミナリ、第十四世

ノ時。教王使者ヲ基督教國ノ王府ニ送リ、其君長ト臣民ノ事務ヲ監察セシム。是ヲ列伽多トイフ。此列伽多君氏ノ間ニ立テ國事ヲ處分シ、會議アル時ハ、教事ト世事トヲ論ゼズ。教王ノ代人ト為リ、教門ノ号令ヲ布告シ。若シ罪スベシト思フ者アル時ハ、直チニ教門放逐ノ罰ヲ命ズ。諸國ノ大教長長老等列伽多ノ威權ヲ擅ニスルヲ厭ヒ、其監督ヲ受ルヲ欲セサル者多シ。是ノ如キ者ハ年々幾多ノ金ヲ教王ニ獻ジテ列伽多ノ監督ヲ免カル、トヲ得ベシ。是ヨリ諸國ノ道院ニ羅馬教王ノ羈制ヲ脱シテ自由ヲ得ル者多シ。之ヲ越贍^{エキヒキ}

ノ道院トイフ、

○教王所領ノ地ニ在ル處ノ大禮拜堂ハ、加的拿^{カルダナル}羅馬門^{教門}ノ重官ノ禮拜堂ト名ケ、其中ニ居ル處ノ教士ヲ加的拿ノ教長、加的拿ノ祭司、加的拿ノ幹事ト名ケ、其名ヲ門楣ノ上ニ記ス。古代ハ唯加的拿ノ祭司トイフ者アリテ、其他ノ教士ノ名目ナシ。加的拿ノ祭司ハ羅馬都下ノ說法ヲ以テ職ト為ル者ナリ。
○古代ハ教王ハ教士ト平民トノ選擇ニ由テ其位ニ登リシガ、甲利曼大王ノ時ヨリ、更ニ皇帝ノ允在^カテ教王ノ位ヲ定ムルト為ル。是ヨリ後教王ヲ選立



スル時ニ或ハ賄賂ヲ用ヒ或ハ私黨ヲ立ル等ノ惡弊
起レリ第十世第十一世ノ頃ニ至リテハ學識足ラズ
行實修マラザル者僥倖ヲ以テ教王ノ位ニ登ル
リ帝王侯伯ノ驕傲ナル者ハ之ニ依テ濫法越度ノ事
ヲ為ス者多シ教王ニコラ格ラス第二之ヲ憂ヒ一千零五
十九年羅馬ニ於テ大ニ教事ノ會議ヲ開キ新タニ法
制ヲ定メテ曰ク教王ハカルクナル加的拿即チノ撰舉ニ因リ加
的拿ノ教長ノ禮式ヲ具フルニ因テ其位ニ登ル
得ベシ教王已ニ立ツノ後皇帝ニ求ムルハ皇帝其
事ヲ申固シテ其同意ナルヲ表ス昔教王ウイナム威日流ト

皇帝グスタフ入ス斯底ニヤン安ト約ヲ立シモ亦之ニ同ジ然レ此
法ハ久シカラズシテ之ヲ廢セリ是ヨリシテ教王ヲ
撰立スルハ七人ノカルクナル加的拿ノ教長二十八人ノ加的拿
ノ祭司ニテ之ヲ行ノ第十二世ノ時ニ至リ加的拿ノ
幹事モ亦撰舉ノ員ニ加ハルヲ得タリ第十六世ノ
時ニ至リ又其法ヲ改メ單ニ加的拿ト稱スル者ノミ
撰舉ノヲ行フヲ得タリ加的拿ハ七十人ヲ定員
トスレバ其員ニ滿ルハ稀ナリ
○加的拿ノ位階ハ教長君長及ビ皇帝ノ使者ト
在リト定ム今日猶教宗國ニ於テ加的拿ヲ以テ教政

ノ重職トシ、教王ノ申固ニ因テ其官ヲ命ズ。加的拿ハ赤色ノ帽ヲ戴キ、紫色ノ外袍ヲ穿ツ。
 ○教王格^{グレゴリス}革カ大ニ教門ノ紀律ヲ振肅シ、殊ニ教士妻ヲ娶ラザルノ法ヲ再興シテ古代ノ盛ニ復ス。甲利曼大王ハ西國人君中ノ非常ノ英傑ナリ。王ノ時歐羅巴ノ民ハ多ク牧畜ノ野人ニシテ牛廠羊舎ノ國ノリシガ、王其民ヲ導テ開化ノ地ニ進マシメ、基督ノ教法ヲ行ヒ、以テ禮儀ニ向ハシム。甲利曼ノ諸孫ノ時、國中動乱アリテ互ニ勝敗アリシガ、終ニ法^{フランス}蘭^{ドイツ}西德意志ノ兩大國興ル。十字軍ノ如キハ屢、兵ヲ東方ニ出シテ其

志ヲ達スルヲ得ズト雖、亦之ニ依テ粗猛ナル中古ノ民ニ利惠ヲ為ス。多シ。歐羅巴ノ民希臘亞刺伯ノ開化セル民ニ接シ、其耕作ノ良法工藝ノ精巧、及び日用便利ノ諸法ヲ見テ之ヲ善トシ、東方ノ學術ヲ以テ西方ノ諸國ニ移シ、又風車ヲ作り、土堤ヲ築キ、水槽ヲ設クルノ方ヲ學ビ、其他食菜菓實ノ珍品ヲ得テ盡ク之ヲ歐羅巴ニ送ル。薤、甘藍ノ菜、將棊ノ戲、及ビ軍用ノ鼓、七十字軍ノ時ニ得タリシ者ニシテ、其他此後ヨリシテ軍術兵法ニ大ナル改革ヲ加ヘタリ。其内殊ニ十字軍ニ由テ最大ナル利益ヲ得シハ伊大利ノ海濱

ノ諸邑ニ及ブ者ナシ。威尼^{ヴェネチヤ}斯熱那^{ジェノヴァ}亞畢撒^{アムステルダム}亞馬非^{アムステルダム}ノ民十字軍ノ為ニ船舶ヲ給シ、糧食兵器ヲ送り、其歸國ノ時ハ又許多ノ貨物ヲ運輸セリ。是ニ依テ以上ノ諸邑驟ニ繁盛ヲ致シ、世界著名ノ貿易場ト為レリ。十字軍歸國ノ時齎セシ貨物ノ中ニ於テハ殊ニ番紅花、青黛、明礬、甘蔗ヲ以テ奇品ト為ス。十字軍ノ徒叙利亞ノ的里波利ニ於テ始メテ之ヲ得、之ヲ西齊里ニ移セシガ、其後再馬德^{マデラ}辣ニ遷セリ、亞米利加ノ發見以來、又之ヲ巴西^{ブラジール}ト西印度ノ諸島ニ植エ、今日ニ至テハ是等ノ地ヨリ許多ノ砂糖ヲ歐羅巴ニ輸入セリ。一千一百四十

年西齊里ノ王魯熱^{ルベロ}尔第二初メテ雅典^{アテーン}德巴哥林^{デバル}的ヨリ蠶絲ノ工人ヲ雇ヒ、巴勒^{バル}摩^モニ於テ蠶絲ノ工作ヲ創ム。是ニ由テ巴勒摩ヲ稱シテ西國蠶絲ノ母國ト稱ス。是ヨリ蠶絲貿易ノ貨物ト為リ、初ハ倫巴多ニ入り、後ニ法蘭西ノ南部ニ入り、遂ニ歐羅巴諸國ノ都邑ニ於テ蠶絲ノ工作ヲ為シ、ル者無キニ至レリ。
○歐羅巴北部ノ民モ此時ヨリ伊大^{イタリヤ}利ノ民ニ倣ヒ、盛ニ貿易ノ業ヲ開ケリ。東海^{バルチック}即チ波羅的海ノ濱ニ於テハ多ク造船ノ材ヲ出シ、瑞典那威ヨリハ多ク鐵ヲ出セリ。荷蘭ニ於テハ不律^{ネーデルラント}日安都^{アンтвер}厄比^{ブリッセル}不律^{ネーデルラント}悉ノ諸邑



通商殊ニ盛ニ。北方ニ於テ盧比克^{リュベック}翰堡^{ハンブルグ}不來梅^{ブライマー}維士^{ヴィイ}比^ビノ諸邑貨物湊會ノ地ト為レリ。維士比^{ヴィイ}ハ曷蘭^{ゴットランド}島中ノ邑ニシテ方今ハ一ノ小村落ナレバ其盛ナリ。時ハ一萬二千ノ商賈居住セシト云ヘリ。此地ノ商民船主始メテ海港ノ法度ヲ定メ之ヲ維士比^{ヴィイ}ノ水法ト名ク。近年歐羅巴諸國ニ行ハル海上港中ノ諸法度ハ皆此維士比ノ水法ヲ以テ根據トセシ者ナリ。
○伊大利ノ諸邑ハ貿易ニ依テ大ニ富饒ヲ致シ其民驕傲ノ心日ニ長ジ。遂ニ獨立自主ノ政ヲ行ハント欲シ。或ハカヲ以テ德意志皇帝ノ威令ヲ拋棄シ或ハ金

ヲ出シテ其自由ヲ買フ。此時諸國ノ君長多ク財用ニ窮セシヲ以テ伊大利人ノ金ヲ受テ其請ヲ聽ク者多シ。此等ノ諸邑皆自ラ自主ノ都邑ト号シ。皇帝ヲ尊シ。君ト為サズ。唯之ヲ稱シテ地主ト為ルノミ。
○貿易ノ勢駸々トシテ日ニ盛ナラントスレバ。猶道路壅塞ノ障碍アリテ大ニ諸民ノ患ヲ為ス。此時諸國ノ騎士等處々ニ居所ヲ占メ。貨物ヲ裝載セル舟車ヲ見レバ。兵ヲ以テ之ヲ脅シ。盡ク其貨物ヲ奪ス。是ニ依テ貿易ノ業ト為ル者。水陸共ニ盜賊ノ恐アリ。大ニ運輸ノ便ヲ闕ク。諸國ノ民此患ヲ除カント欲シ。一千

泰西史錄 中編卷七 三十一

二百四十一年^{ハムブルグ、リュベック}翰堡律比克二邑ノ民相謀リ、各幾多ノ
 金ヲ出シテ兵士ヲ養ヒ、毎ニ貨物ノ舟車ヲ護シテ盜
 賊ノ患ニ備ヘシム。其他ノ諸邑亦此法ノ利益多キヲ
 知り、二邑ノ所為ニ倣ハント欲シ。不倫瑞克^{スウェーデン}先ツ二邑
 ニ合ス。尋テ羅斯突^{ロストック}、威士馬士^{ウイスマル}、多拉孫等^{ストラレン}ノ諸邑盡ク相
 合シテ一ト為ル。其盛ナル時ハ此連合諸邑ノ數八十
 五ニ至レリ。第十四世ノ時ニ至リ、此連合諸邑ノ名ケ
 テ漢撒^{ハンザ}ト云フ。德意志ノ古語ニ交友ヲ「ハンス」ト云フ
 ヨリシテ此名ヲ命ゼシ者ナリ。漢撒ノ首邑ハ律比克
 ニシテ此地ニ連合諸邑ノ議會アリ、其他ノ三部ノ首

邑ハ漢撒ヲ分ツテ四大部ヲ為セバナリ。不倫瑞克、可
 倫^{ルンデン}、但澤^{ダンツィグ}ナリ。其後ニ至リ、他國ノ民此漢撒ノ為メニ貨
 物ヲ置クノ地ヲ設ケ、其貿易ヲ便ニセシム。即チ魯西
 亞ニ於テハ諾烏^{ノウグ}、痾羅^{コロ}、英吉利ニ於テハ倫敦、那威ニ於
 テハ白然^{ベルゲン}、呢達蘭^{ニールランド}ニ於テハ不律日^{ブリュク}是ナリ。貿易ノ諸邑
 此ノ如ク其力ヲ合併セシヨリ、其威勢強大ニシテ有
 土ノ君長ト相頡頑スルニ至ル。遂ニ此漢撒ノ力ヲ以
 テ瑞典ノ王馬克^{マク}、那^ノノ位ヲ廢シ、又但澤ノ市長ハ噍馬
 ノ王^{キリストヒル}、基利希羅ニ向テ戰ヲ宣ブ。一千四百八十二年
 ニハ漢撒ノ諸邑相合シ、兵艦二百八十二隻、水夫一万

二千入ヲ殺シテ哥本哈干ニ向テ兵ヲ出セシマリ、
 ○漢撒諸邑ノ繁盛ヲ致ス。殆ンド三百年。其時ニ至
 リ諸國ノ君長。商旅ヲ惠ミ。道路ノ安全ヲ謀リシカバ、
 何レノ地ノ商賈モ自由ニ其業ヲ營ミ。漢撒ノ力ヲ假
 ル。ヲ要セズ。是ニ由テ漢撒諸邑ノ威權大ニ衰ヘ同
 盟ノ諸邑漸々盟約ヲ離レテ分立ス。唯翰堡。律比克。北
 閔ノ三邑ノミ。猶分離セズ。一千六百三十年。新ニ盟約
 ヲ結ビ以テ其連合ヲ固クス。此三邑ハ今日ニ至ルマ
 デ猶漢撒ノ名ヲ存セリ。漢撒ノ外。諸邑連合シテ貿易
 ヲ營ム者アリ。其内最モ大ナルヲ萊因ノ連合邑トス。

此連合諸邑ハ一千二百五十四年。萊因河傍ノ七十邑
 相合シテ盟約ヲ結ビ。以テ獨立自由ノ商業ヲ營マン
 下ヲ欲セシ者ナリ。
 ○十字軍ノ功驗ノ猶一時隱没シ。後年ニ至リテ其徵
 ヲ顯ハス者アリ。此戦争ノ間。食料百物ノ匱乏マルヨ
 リ。君長乞巧ノ別ナク。同ク餓死ニ至ル者アリ。此際ニ
 至リ。奴隸ト主人トノ間ニ於テ本國ニ在ル如キノ嚴
 ナル界限ヲ立ル。能ハズ。主人タル者敢テ奴隸ニ自
 由ヲ許セシニ非スト雖也。主人ノ奴隸ヲ處マル。此
 時ヨリ大ニ寛恕ヲ加フ。己ニ歐羅巴ニ還ルノ後。奴隸

ノ徒金ヲ以テ其身ヲ贖ハントスル者多シ。君長騎士等其産ヲ失ヒ家計窮乏スル者多キニ由リ。奴隸ノ乞ヲ許ス者多シ。又下等ノ民ノ中ニ於テ、真ノ奴隸ニハ非ザレ。臣從來富人ノ視テ奴隸ト為セシ者アリ。十字軍ノ興リシ初メ、此輩教王ヨリ十字ノ徽号ヲ受ケテ之ヲ肩ニ着ケシヨリ。遂ニ他ノ民ト同ク自主ノ權ヲ得タリ。又君長騎士等ノ十字軍ニテ死亡セシ者ハ、其奴隸ハ自然ニ主人ノ係属ヲ離レテ自由ノ身ト為リ。或ハ幸ニシテ主人ノ遺産ヲ受ル者アリ。東國ノ風俗ト技藝トヲ學ビ得シ者ノ中ニハ、貧民變シテ富民ト

為ル者アリテ、其歸國ノ後、或ハ甲士ノ義團ヲ結ブ者アリ。或ハ工人ノ會社ヲ立ル者アリ。是ニ依テ武技工業共ニ其等ヲ進メ、歐羅巴ニ於テ舊來未ダ至ラザルノ地ニ至レリ。此時創立ヒシ工人ノ會社ハ、一千七百九十四年ニ至ルマデ存在シ、其社法嚴整ニシテ、能ク其業ニ熟練シ、試験ヲ經ル者ニ非ザレハ、社ニ入ルヲ許サバリシナリ。又農業ノ事モ、十字軍ノ時、奴隸ノ民自由ノ權ヲ得シヨリ、其中或ハ資産ノ富饒ヲ致ス者アリテ、東國ノ耕農法ヲ學ビ知リ、三角麥其他ノ穀種ヲ携歸リ、歐羅巴於テ古來未ダ知ラザリシ農術ヲ

以テ荒蕪ノ地ヲ開墾シ以テ良田ト為スヲ得タリ。
○此時ノ騎士ト云フ者ハ學問ノ教育ヲ得シ者ナク、
其身ヲ修メ人ニ接ハルニ、總テ神道ノ教導ヲ以テ準
則ト為ス。方今文化大ニ開ケ、民皆能ク道理ノ何物ヲ
ルヲ知ルニ至レリト雖、其誠心ニ道ヲ信ズルヲ
ハ却テ古代ノ騎士ニ及バザルヲ多シ。騎士等聖地ニ
在ルノ間、或ハ神聖ノ遺骨ヲ得ル者アリ、或ハ其他尊
重スベキ貨物ヲ得ル者アリ、歸國ノ後、騎士等己カ城
砦ノ近傍ニ小ナル禮拜堂ヲ築テ其物ヲ安置シ、修道
士ヲ招テ其堂ノ主タラシム。騎士等亦多少ノ土地ヲ

捐テ其堂ニ附與セシガ故ニ、田舎ノ間ニ教士所管ノ
地多シ。目今所々ニ殘留セル廢城ノ遺墟ヲ見レバ、頗
ル當時ノ事ヲ徵スルニ足ルベクシテ、其村名邑名ノ
中亦國ノ語ニテ其意味ヲ解シ難キ者アルハ、蓋シ當
時騎士ノ名ヲ取テ之ニ名ケシ者ナルベシ。
○十字軍ノ一擧ハ諸國ノ帝王屢、事ヲ擧テ成ラズ、歐
羅巴ノ人口之ガ為ニ大ニ其數ヲ減少スルニ至ル。然
レ此此事歐羅巴ノ為メニ害ヲ為サズシテ却テ幾多
ノ益ヲ為セリ。其故ハ、民ノ善良ナル者ハ卓越ナル志
操ヲ以テ上帝ノ為ニ一死ヲ致シ、永ク後人ヲシテ其

人ヲ欽仰敬重セシメ、又民ノ不善ナル者ハ、或ハ盜賊
ヲ為サント欲シ、或ハ狂暴鴟張ノ心ヨリシテ軍ニ從
トシ者ノレバ、縱令盡ク死亡スルトモ、毫モ本國ノ損
失トハナラザルヲ以テナリ、

第七十一

基督ノ教門

○基督教ノ歐羅巴ニ入りシヤ、能ク諸國ノ民心ニ浸
透シテ、其教法日ニ益隆盛ヲ致セリ、民ノ循良ナル者
此教法ヲ尊信スルヨリシテ、又其教士ヲモ尊崇敬重
シ、教士等ハ其地位ノ宜キヲ得タルヨリ、平民ニ比ス

レバ博識多智ノ者多キガ故ニ、其威權自然ニ遠ク平
民ノ上ニ在リ、教士ノ威權漸々增高スルニ從ヒ、遂ニ
其權ヲ政治ノ上ニ及ボスニ至ル、諸國ノ君長等教法
ノカヲ假リテ其頑固ナル國民ヲ制馭セント欲シ、教
王教長ト交ヲ結び、以テ己ガ援助ト為ス、是ヨリ教王
教士等、他人ニ勝レタル特權ヲ得、廣大ノ土地ヲ領シ、
教士ノ尊キ者ハ、諸國ニ於テ殊ニ德意志國ニ於テ一
時其威權ヲ振フテ王侯ニ齊シ、是ニ於テ諸國ノ君長、
教士ノ驕傲ヲ惡シ、其威ヲ折カント欲スル者多シ、教
王格^{グレハリス}勒^{リス}革^スカ其剛強ト堅忍ノカヲ以テ、教法ヲシテ世

泰西史綱 中卷七

法ノ羈束ヲ脱セシメ。教王ヲ以テ諸國ノ君長ノ是非
善惡ヲ裁決スルノ權アル者ト為ス。是ヨリ帝王ハ益
世法ノ權ヲ張ラントシ。教王ハ益教法ノ權ヲ伸サン
ト欲シ。争鬪擠排スルヲ數十年ニシテ止マズ。遂ニ兩
敵共ニ疲レ。再自己ノ固有ノ疆界ノ内ニ退キテ其亂
始メテ定マル。若シ兩敵始メヨリ。自己正當ノ疆界ヲ
守リ。各親厚ノ心ヲ以テ互ニ相援助セバ。幾多ノ善事
ヲ増シ。幾多ノ惡業ヲ消シ。世法教法共ニ許大ノ鴻益
ヲ受シテナルベシ。

○精舎或ハ道院建立ノ下ハ。上編第十卷三十三ニ於
ト詳ス。

テ略其原由ヲ記セリ。初メ努ヌル西ノ庇ベネチヤ尼ニ忒テ平甫フメテ
十四羅馬ノ少年ノ風俗ノ醜惡ヲ厭ヒ。獨リ脱逃シテ
荒漠ノ地ニ走り。其地ニ留ルヲ數年。人其生死存亡ヲ
知ル者ナシ。久シテ少年ガ荒野ニ獨栖スルヲ傳フル
者アリ。諸人始メテ其庇尼忒ナルヲ知リ。其信心ノ
誠ニ頼テ生命ヲ全フシ得タリト稱シ。皆嘖々トシテ
其奇ヲ傳フ。是ニ於テ羅馬ノ少年。舊時ノ過失ヲ悔ヒ。
罪ヲ庇尼忒ニ謝シ。庇尼忒ヲ推シテ長者ト為シ。從テ
共ニ荒野ニ栖ム者多シ。耶蘇生後五百二十九年。庇尼
忒始メテ那ナ不ベ勒ルスノ近傍ニ於テ甲思那カッシノノ精舎ヲ建ツ。

泰西史鏡 中編卷七 三十六

天下有名ノ精舎ナリ。夫ヨリ羅馬ノ近傍ニ於テ猶十
二所ノ精舎ヲ創立セリ。庇尼忒ノ門人等。庇尼忒ガ行
ヒシ儉素澹泊ナル生養ノ法ヲ尊ヒ、之ヲ庇尼忒ノ規
則ト名ケ、謹テ之ヲ奉行ス。政學ノ大家皆謂ヘラク。庇
尼忒ノ遺事ヲ以テ之ヲ按ズルニ、此人ハ蓋シ秀羣ノ
智識ト稱スベク、其定マル所ノ法度ノ草案ハ、政學者
ノ指針ト為ル者多シト。凡此精舎ニ入テ道ヲ學ブ者
ハ、何事モ院中ノ長老ノ命ニ從ハザルベカラズ、浮世
ノ娛樂ヲ棄捐セザルベカラズトス。故ニ此教徒ハ皆
衣食ヲ粗薄ニシ、行誼ヲ嚴ニシ、事業ヲ勵ムト他ニ超

タリ。若シ少シク戒律ヲ守ラザル者アレバ、長老懇ニ
規誡シテ其過失ヲ改メシム。教徒ノ日々ノ事業ハ、恭
敬ヲ盡シテ上帝ニ奉事シ。又少年ヲ教ヘテ道ニ入ラ
シムルニ在リ。其少年ヲ教ルニ敢テ謝金ヲ受ルコトナ
シ。又日々工業ヲ營ミ、半ハ衣食ノ費ニ供シ。半ハ他ノ
工作ヲ為スノ資本ト為ス。庇尼忒ノ死スル後五十年
ニシテ其教派隆盛ヲ極メ、伊大利、西班牙、加爾利ニ於
テ許多ノ精舎ヲ建立シ。西國ノ修行士ハ、大抵庇尼忒
ノ門徒ニ非ル者ナキニ至レリ。國民大遷徙ノ時ニ當
リ、諸國ノ土地大ニ荒廢セシニ、此教派ノ徒、カヲ盡シ

テ荒蕪ヲ開墾シ林莽ヲ剝刈シ沼澤ヲ乾涸シ居所ヲ失フテ徬徨セル窮民ヲ招テ精舎ノ四近ニ居住セシメ以テ村ヲ為シ邑ヲ成シ異教ノ徒ヲ諭シテ正教ニ歸セシメ精舎中ノ學校ニ於テ少年ヲ教育シ此時未ダ他ニ學校ノ設ナシ少シク閑暇アレバ希臘羅馬ノ古書ヲ謄寫シ精舎中ノ書庫ニ藏シ以テ後生ニ貽ラシトス中世ノ始ニ方リ歐羅巴ノ諸國大ニ亂シ名都大邑兵革ノ禍ヲ被ラザル者少シ此時モシ庇尼忒ノ教徒等カ能ク古書ヲ珍藏スルニ非ズニバソクラテス、プラト、ト、デ、モ、ス、テ、ネ、ス、アレ、キ、サ、ン、デ、ル、シ、セ、リ、セ、ハ、ル、ニ、シ、キ、共布刺多特摩士的尼亞歷山得西塞羅塞撒等ノ如キ共

豪賢哲ノ遺書ヲ今日ニ存スルハ能ハザリシトナルベシ
 ○今人輒モスレバモンク孟格ノ修行セテ以テ人ヲ嘲笑スルノ語ト為ス者多シ殊ニ知ラズ孟格ハ西國ニ於テ許多ノ善事ヲ為セシ人ナルヲ、中古大亂ノ時ニ當リ文教全ク地ヲ掃ヘリ此時モシ修行士ノ其學ヲ修ムルコトナクバ天下ノ人復書ヲ讀ミ字ヲ學ブコトヲ知ラザルニ至リシナルベシ然ラバ今日文學ノ世間ニ存
 在シテ吾儕ノ書ヲ讀ミ字ヲ書クコトヲ知ルハ修行士ノ賜ニ非ズト云フベカラザルナリ

泰西史綱
 中編卷七

○ベネチクト庇尼忒ノ門人ニ日^{デオニヒス}疴尼修ト云フ者アリ、世ニ少日
 疴尼修ト稱ズル者ナリ、此人耶蘇基督ノ生年ヲ算定
 シ之ヲ以テ紀元ノ始トス、基督教ヲ奉ズル者初メ
 ハ羅馬城ノ建築ヲ以テ紀元ノ始トシ、後戴克里先^{デオケリキニ}
 ノ皇帝ノ即位ヲ以テ紀元ノ始トセシガ、此時ヨリ皆日
 疴尼修ノ法ニ遵フ、東國ニ於テハ今日猶世界創造ヲ
 以テ紀元ノ始トスル者アリ、
 ○原註ニ曰ク、阿那弗流^{オナフリス}ガ算定スル所ニテハ、基督ノ
 生年、日疴尼修ノ説ニ先ダツト一年、巴祿紐^{バロニヌ}ガ算定
 スル處ニテハ、先ダツト二年ナリ、^{デオケリニヌ}德劫留ハ又基督

ノ生年ヲ以テ、方今用フル紀元ノ四年前ニ在リト
 為ス、伯達彪^{ヘタビウ}德劫留ノ説ヲ以テ實ニ近シト為ス、然
 レモ日疴尼修ノ説ヲモ全ク之ヲ非ナリトセズ、
 第七十二

新精舎義團 義團或ハ譯シテ教會ト云フ

○其後、貴族及ビ騎士ノ徒、上帝ニ奉事スルノ意ヲ以
 テ精舎ノ徒ト相結ビ、更ニ新ニ幾箇ノ精舎ヲ建立ス、
 此精舎、民ノ愚昧ナル者ヲ導ク為メニ益ヲ為ス、類
 多シ。
 ○第十世ノ時、^{フルゴンダイ}庇尼忒派ノ教士、不于的ノ古略尼ノ精

泰西史 中編卷七 三十九

舎ニ於テ嚴肅ナル法度ヲ定ム。世ニ之ヲ古略尼ノ法
規ト名ク。此精舎ニ於テ始メテ総魂日ノ祭ヲ營ム。魂
日ハ羅馬教ニテ行フ祭日。是ヨリ以前ハ此日ハ基督
ノ名ニテ十一月二日ナリ。是ヨリ以前ハ此日ハ基督
教徒唯死者ノ為メニ拜禮ヲ行ヒシナリ。此時
ヨリ加特力ノ教門ハ何レノ國ニテモ皆此日ヲ祭ル
ヲ至レリ。

○一千零八十四年。可倫ノ人蒲翁ブルド始メテ加兌塞ノ教
會ヲ建ツ。蒲翁少キ時頼收ライムニ於テ神道ヲ學ビ。遂ニ浮
世ノ汚濁ヲ厭ヒ。其同志數人ト共ニ格勒那伯ノ休頓
ノ許ニ至リテ道ヲ求ム。休頓蒲翁等ヲ教ヘ。加爾多來

トイヘル荒莽ノ地ニ赴カシム。蒲翁其徒ト共ニ速ニ
其地ニ至リ。先著述ヲ業トシテ衣食ノ資ヲ求ム。夫ヨ
リ遂ニ新ニ教會ヲ立テ其名ヲ加兌塞トイフ。加兌塞
ノ教徒タル者ハ各一室ニ居リ。室毎ニ小庭ヲ設ケ。神
ニ事フルノ外。同門徒ト雖モ妄リニ相交通スルヲナ
シ。若シ教徒相逢フキハ。メメント。モリト云フヲ以テ
禮儀ノ辭トス。此辭ハ死スルヲ忘レザルノ義ナリ。
若シ教徒衣食其他日用ノ物ニ闕クキハ。一ノ信号ヲ
以テ精舎ノ役夫ニ報ジテ之ヲ取ル。然レモ肉食ハ堅
ク之ヲ禁ズ。此精舎ノ法規此ノ如ク嚴ナリト雖モ。其

教徒タル者。今日ニ至ルマデ猶當初ノ法規ヲ守リ之
ヲ變更スルコトナシ。
○一千零九十八年法蘭西ノ思的澳ノ人羅伯思的
西ノ教會ヲ起ス。羅伯的昂ノ傍ナル荒蕪ノ地ニ於テ
學校ヲ建テ。以テ精舎ノ少年ヲ教フ。有名ナル不干的
ノ教士伯爾拿バルナルド此學校ニ來リ。此地ニ加來爾皓カライルハカノ道院
ヲ建ヅルニ及ヒ。思的西ノ教會ノ盛ナルコト加兒塞カルトイセ
ノ教會ニ超過セリ。伯爾拿。精舎ノ教徒ヲ勸勵教導シ
テ拜神ト事業トニ勉強セシム。其法規ハ甚嚴ニシテ。
教徒タル者互ニ談話スルコトヲ許サズ。食物ハ大麥ノ

麵包ノ外ハ食フコト能ハズ。飲料ハ推樹葉ノ煎汁ノ外
ハ飲ムコト能ハズ。伯爾拿ノ居所飲食此ノ如ク世人ニ
隔絶セリト雖。氏。教王及ビ君長ノ為メニ教務ヲ諭シ
國政ヲ談ジ以テ大ニ其力ヲ助ケタリ。其事ハ上文ノ
十字軍ノ條ニ記スルガ如シ。
○一千一百二十七年。諾伯多ノルバルトス布勒門ブレモンノ教會ヲ創立ス。
諾伯多ハ初メ克勒非クレフノ散的カシテニ於テ教師ト為リ。皇帝
顯利第五ノ宮中ニ出入シテ世間ノ人ト其生養ノ道
ヲ同ケス。諾伯多一日馬ニ乘リテ遊行セシニ。忽風雨
晦冥。電氣。諾伯多ヲ擊テ馬ヨリ墜ス。諾伯多一時暈絶

泰西史金 中 卷七 四十一

セシガ、暫時ニシテ蘇生シ大呼シテ曰ク、皇天上帝余
 ガ所行ヲ以テ可ト為スカ不可ト為スカト、是ヨリ翻
 然トシテ其行ヲ改メ、浮生ノ娛樂ヲ棄テ、教門ノ戒律
 ヲ受ケテ其身ヲ檢シ、資財ヲ散ジテ貧人ヲ賑恤シ、己
 ガ收入物ヲ辭シテ之ヲ受ケズ同志ノ教士數人ト共
 ニ國ヲ出テ諸國ヲ巡行シ、愚昧ノ者ヲ喻シテ神道ニ
 歸セシメントス。諾伯多ハ一書一鉢一杖ノ外ハ一モ
 身ニ隨フ者ナシ、諾伯多ノ言フ處行フ所、深ク人心ヲ
 感セシメ、教士ノ身ヲ修ムル正シカラザル者ハ之
 ヲ見テ行ヲ改ムル者多シ。法蘭西ノ拉昂ノ傍ニ布勒

門^{モン}トイヘル曠野アリ、諾伯多此地ニ於テ新ニ精舎
 ヲ作り、布勒門ノ精舎ト名ク、西國ノ教士諾伯多ノ所
 為ニ倣フ者多シ、己ニシテ布勒門ノ教會大ニ其名ヲ
 發シ、諸國ノ侯伯等此教會ニ加ハル者多シ、甲邊^{カッペン}堡ノ
 侯額弗黎^{フレイ}ノ如キハ、其所有ノ地ヲ以テ盡ク布勒門ノ
 教會ニ寄附シ、其城寨ヲ以テ道院ト為シ、自ラ修道士
 ノ衣服ヲ着スルニ至ル、諾伯多後ニ馬丁堡^{マルティン}ノ教長ト
 為リシガ、其教士ノ身ヲ律スル正シカラザルヲ憂
 ヒ常ニ其弊ヲ一洗センヲ思ヘリ、諾伯多ノ死死ハ
 之ヲ馬丁堡ノ大寺院ニ葬レリ、

第七十三

佛郎士斯干 フランシスカン

○佛郎士孤ハ中伊大利ノ小邑曷西石ノ人ナリ。其父ハ富豪ノ商賈ニシテ其小兒ヲ教育スルノ道ヲ知ラズ。故ニ佛郎士孤ノ幼ナル時唯其意ニ恊フ處ノ朋友ヲ集メ、遊戯娛樂スルヲ以テ事ト為シ、敬天拜神ノ一ハ少シモ之ヲ知ラズ。然レモ佛郎士孤幼時ヨリ貧窮者ヲ見レバ深ク之ヲ憐レムノ性アリ。一日貧人佛郎士孤ニ物ヲ乞ヒシヲアリ、佛郎士孤偶之ヲ拒ミテ與ヘザリシガ、後深ク之ヲ悔ヒ、是ヨリ心ニ誓ヒ、一物ナ

リトモ身ニ有セル間ハ、決シテ貧人ノ乞ヲ拒マシト思ヘリ。其後佛郎士孤一ノ病者ヲ見タリシガ、其病者將ニ死セントシテ再眼ヲ開テ佛郎士孤ヲ見タリ、佛郎士孤之ヲ察スルニ、幾多ノ闕乏アリテ快ク死ニ就クヲ能ハザル者ニ似タリ。此ニ事ニ逢シヨリ、佛郎士孤翻然其意ヲ改メ、浮世ヲ脱履スルノ心ヲ起シ、城市ヲ出テ野外閑寂ノ地ニ於テ朋友ヲ求メテ之ニ從ヒ、是ヨリ舊來ノ朋友ヲ謝絶シ、父ノ家ニ在テ粗衣薄食ヲ為シ、總テ一時朽腐スベキ物ヲ見テ之ヲ賤ク、盡ク我身ニ属スル處ノ百物ヲ拋棄ス、佛郎士孤ノ父甚之



ヲ憚バズ、佛郎士孤ヲ逐テ其家ヲ繼ガシメズ、佛郎士
孤怡然トシテ家ヲ出テ、謂テ曰ク、我父ハ實ニ天上ニ
在リト、佛郎士孤夫ヨリ亞卑尼斯山ノ深林ヲ周廻シ、
波^ボ的^ド雲^ウ古^ク拉^ラトイヘル類^レ發^ハセル小寺ヲ尋ネ、其傍ニ草
舎ヲ作り、常ニ拜神ヲ以テ務トシ、兼テ近村ノ病者ヲ
醫治ス。一日、彌撒ノ祭ノ時、講師ノ聖經ヲ講ズルヲ聞
クニ、其文ニ曰ク、上帝嘗テ彼ニ勅シテ金銀ハ固ヨリ
汝ノ有ニ非ズ、二領ノ外衫、及ヒ杖履モ亦汝ガ固有ノ
物ニ非ズト云シヲアリ、因テ今其言ヲ思ヒ、履ヲ脱シ
金ヲ散ジ、繩ヲ以テ繫ゲル大帽ヲ撤セリト、講義ノ語
此ニ止ル

佛郎士孤此講義ヲ聞シヨリ、志ヲ立テ人世ノ娛樂安
慰ヲ棄去リ、貧者ノ為ニ資財ヲ散ジ、自窮乏ヲ甘ンジ
テ此世ヲ畢ラント欲ス。又日々繩ヲ以テ其身ヲ束縛
シ、以テ己ノ戒行ヲ勤ム。夫ヨリ出テ諸國ヲ周遊シ、人
ニ逢フ毎ニ己ガ舊惡ヲ懺悔ス。少年ノ志アル者、佛郎
士孤ノ弟子ト為リ、其教ニ從ハント云フ者アリ、佛郎
士孤弟子ノ為メニ戒律ヲ定メ、其法ハ謙遜ヲ以テ第
一ト為シ、是ヲアラトル。ミノルト名ケ、其教會ハ佛郎
士孤ノ名ヲ取リテ佛郎士斯干ト名ク、然ルニ佛郎士
斯干ノ初メテ起リシキハ、國人之ヲ信スル者少ク、或

泰西史金 中 卷七 四十四

ハ其所行、乞兒ニ類スルヲ嘲笑シ、或ハ衣服ノ異常
ヲ愚弄シ、或ハ深ク惡ミテ之ヲ擯斥スル者アリ、然レ
モ教徒等非常ノ堪忍ヲ以テ之ニ耐ヘ、敢テ之ト忿争
セズ、又敢テ其操行ヲ變ゼズ、久クシテ諸人卻テ自顧
ミ、此教徒ノ行フ處ノ善ナルヲ知リ、初メ之ヲ惡ミ
シ者モ大ニ前邇ヲ悔テ此教會ニ入ル者アリ、又此教
徒ノ所行嚴肅方正ナルガ故ニ、教會ニ入ラザル者モ
亦之ヲ以テ模範ト為ス者アリ、佛郎士孤、其門人ヲ諸
國ニ出シ、以テ其教ヲ弘メント欲シ、其身ハ獨リ埃及
ニ赴キ、蘇尔丹ヲ説テ基督教ニ歸ヒシメ、トス、然ル

ニ門人ノ摩洛哥ニ至リシ者ハ盡ク土人ニ虐殺セラ
ル。

○此教會ノ始メテ立シ片ハ、其人員甚少ク、佛郎士孤
自ラ雜務ヲ處分セリ、佛郎士孤性謙抑ニシテ毫モ虚
驕ノ氣ナシ、初メ此教會ハ未ダ獨立ノ權ナク、土地ノ
教長ノ下ニ属シテ其指揮ヲ受ク、門人等之ヲ屑トセ
ズ、教王ニ乞フテ自主ノ教會ノ允許ヲ得ント欲シ、其
事ヲ佛郎士孤ニ言フ、佛郎士孤却テ門人ヲ叱シテ其
言ヲ用ヒズ、佛郎士孤ノ没スル後、佛郎士斯干教王ノ
允許ヲ得テ自主ノ教會ト為リ、教長ノ監察ナクシテ

基督教徒ノ懺悔ヲ聽クヲ許サレ。又此教會ニ於テ
 講場ヲ開クハ、他ノ講師之ヲ妨障スルヲ得ズト為
 ス。是等ノ諸規皆多連的ノ會議ニ於テ定マル。佛郎士
 斯干、已ニ教王ノ允准ヲ得。又其貧乏ヲ甘ンズルト、衣
 食ヲ淡薄ニスルトヲ以テ諸民ノ心ヲ得シヨリ、遂ニ
 天下ノ教士ト其權カヲ競ハント欲スルニ至リシハ、
 亦怪シムニ足ラザルナリ。佛郎士孤ハ學問ノ一ニ就
 テハ深クカラ用ヒザリシカドモ、後此教會ヨリ許多
 ノ碩學ヲ出セリ。保那宛多拉亞勒山得特亞列約翰侗
 一名斯格多ノ數人ノ如キハ其中ノ傑出セル者ナリ。

又此教會ニ安多尼漢巴士亞ト云フ者アリ。葡萄牙ノ
 人ナリ。此人伊大利ノ全國ヲ周遊シテ其道ヲ説キシ
 が、其議論ノ堅確ナルニ由リテ能ク異教ノ説ヲ辯倒
 セリ。故ニ世ニ稱シテマリユース、ヘレチコルムト云フ。
 異教ヲ擊碎スル大槌ト云ル義ナリ。諸國ノ民大ニ佛
 郎士斯干ノ教旨ヲ信ジテ之ニ歸スル者多ク、其盛ナ
 ルキハ、教徒ノ數十一萬五千人ニシテ、七千ノ精舎ヲ
 建テ之ニ住居スルニ至リシガ、西班牙ノ革命乱ノ時
 ヲリシテ大ニ衰ヘタリ。其昌盛ノ時ニ方リテハ、自然
 ニ索居離羣ノ生涯ヲ為スヲ能ハズ、而シテ其教派ノ

泰西史
 中編卷七

如キモ此時ヨリ亦數枝ニ分レタリ。其中ニ於テ佛郎士孤が定規ヲ奉ジ、貧窶ノ生計ヲ守ル者ヲ「オブセル」
 ワンテ」ト名ク。此教派ヲ奉ズル者ハ、教會ノ資産ノ
 ミヲ以テ生計ヲ立テ、自己ノ私産ヲ有スル者ナシ。又
 「カプシネント」ト云ヘルアリ。是ハ教派中ニ於テ最モ嚴
 正ナル者ニテ、其教徒ハ太ダ多カラズ。
 自註ニ曰ク、此教派ヲ開キシ者ハ伊大利ノ人馬太
 ナリ。此人身ヲ以テ衆ニ先ダテ、以テ佛郎士孤ガ嚴
 正ノ法度ヲ復ス。馬太常ニ方形ノ法帽ヲ戴ケリ。法
 帽ヲ拉丁語ニ「カプチューム」ト云フ。是此教派ノ名ヲ

得シ所以ナリ。一千五百二十五年、馬太初メテ此法
 度ヲ定メ、明年教王格カ門第七ノ許可ヲ得、一千五
 百三十六年、教王保羅第三ヨリ、ミノルム、カプシノ
 ルムノ教會トイヘル名ヲ賜ハリタリ。

○佛郎士孤又婦人ノ道ヲ信ズル者ノ為ニ高下數等
 ノ教會ヲ立ツ。其中ニ於テ曷西石ノ人加拉刺ノ創建
 セシ加拉思ノ教會最モ世ニ顯ハル。佛郎士孤其後女
 尼ノ為ニ第三種ノ教會ヲ起シ、為ニ適當ノ法則ヲ立
 テ教徒ヲシテ之ヲ遵守セシム。

多米尼干

○佛郎士斯干ノ教會ト大抵同時ニ多米尼干ノ教會起ル。初メカスチリイノ貴族多米尼干孤阿士麻ノ大教院ノ教正ト為リシガ、嘗テ饑饉ニ遇ヒ、教院ノ書籍ヲ販賣シテ貧民ヲ救ヒシヲアリ、後教法ノ事ニ由テ他國ニ旅行シ、侯國都羅塞ニ至リシニ、其地ニ亞昆然士トイハル新教派興リ、大ニ教法ノ爭論ヲ起セリ、多米尼干孤、教王ノ使者ノ狀ヲ見ルニ、皆放恣驕逸ニシテ禮儀ニ循ハズ、亞昆然士ノ分立セシハ是ガ為ナルヲ知リ、深ク教法ノ頹敗シテ教門ノ分裂ヲ生ゼンヲ恐

レ、大ニ己ガ一身ヲ律シテ、亞昆然士ノ信ヲ取ラシト欲シ、儉素ヲ守リ、淡泊ヲ甘ンジ、貧民ニ施與スルニ其財ヲ惜マズ、其身ヲ持スル嚴正ナルヲ、亞昆然士ガ望ム處ニ過タリ、多米尼干孤是ヨリ亞昆然士ノ教會ニ入り、以テ其教徒ヲ論シテ其迷ヲ覺マサシメントス、多米尼干孤ガ艱苦ヲ忍ビ、親愛ニ厚トヲ以テ遂ニ亞昆然士ノ心ヲ感ゼシメ、是ガ為メニ其教派ヲ去テ加特力ノ教法ニ復歸スル者多シ、多米尼干孤ノ亞昆然士ノ教會ニ入りシ間ハ、常ニ禮拜堂ノ内ニ坐卧シ、夜中睡ル、一數時ニ過ギズ、覺レバ復法ヲ講ジ以テ倦ムヲナシ、

一千二百十六年、基督教ノ諸侯伯兵ヲ發シテ亞毘然
 士ヲ擊ツニ及ビ、多米尼孤ノ苦心画餅ト為レリ。是ヨ
 リ兩敵爭戰スルノ數年、殘暴殺戮其慘酷ヲ極ム。多米
 尼孤此時和好ノ天使ト為リテ兩陣ノ間ニ往復シ、亞
 毘然士ヲ説テ加特力教ニ降服セシメ、加特力教士ヲ
 説テ亞毘然士ヲ寬宥セシム。

○多米尼孤更ニ其仁慈ノ心ヲ以テ大ニ世人ヲ救ハ
 ント欲シ、為メニ一ノ教會ヲ立テ、周遊シテ教ヲ説ク
 ヲ以テ其務ト為シ、儉素ヲ守リ、謙抑ヲ極ムルヲ以テ
 其身ヲ持スルノ法ト為ス、是ヲ説法教會ノ始トス、此

教會初メテ精舎ヲ都羅塞ニ建ツ、後巴黎斯ニ於テ聖
 耶哥伯ノ禮拜堂ヲ以テ此教會ノ教院ト為ス、故ニ此
 教會ヲ一ニ耶哥伯ノ教會ト名ク、此教會ハ多ク碩學
 ノ人アリテ少年ヲ教育シ、自國他國ノ異教ノ徒ヲ説
 諭シテ正教ニ歸セシメ、教門ノ為メニ功ヲ立ルノ多
 シ、亞爾伯馬克那、亞幾尼ノ托馬ノ如キハ皆多米尼干
 教會ノ人ナリ、此教會ノ最盛ナリシ時ハ、一萬ノ教院
 アリテ其多キヲ佛郎士斯干ノ上ニ出タリ、吾儕又多
 米尼干ノ教會ニテ、紅玫瑰冠ヲ拜スルノ式ヲ行ヒシ、
 一ヲ知レリ。

第七十五

廣拉士底基一名帖阿魯侃シヨラスチキ テオロガント 即神學

○此時代ニ當リ、又記載セザルベカラザルノ一教派アリ、其教派ノ名ヲ廣拉士底基ト云フ、拉丁語ニ斯哥拉ト云フ、其起リハ第十一世ノ比ニ在リシガ、後年ニ至リ、大ニ隆盛ヲ致セリ、

○此教派ハ先尊信ノ標的ヲ定ムルヲ以テ主要ト為シ、第一ニ聖經ヲ以テ主本ト為シ、更ニ他說ヲ採テ之ヲ助ケ、其標的ノ定マリタル後、重要ノ事瑣末ノ事ヲ雜ヘ取テ其說ヲ完備シ、他教ニ對シテ甚強キ抵抗カ

ヲ起セリ、是ニ由テ一時他教ト烈シキ爭論ヲ起シ、教王其間ニ入りテ兩教ノ論ヲ鎮靖セント欲スルニ至リシコトアリ、

○此教派ヲ創メシ者ハ庇尼忒教會ノ蘭弗朗ナリ、此人ハ倫巴多ノ産ニシテ諾滿的ノ別克ノ道院ノ長老ト為リ、後英國ノ干得不力ノ大教長ニ任ゼラル、是ヨリ前別連伽留ナル者說ヲ立テ、世人ノ麵包ト葡萄酒ヲ以テ耶穌基督ノ現在ノ体ト為スコトヲ嘲笑ス、蘭弗朗證左ヲ引テ別連伽留ノ說ノ是ナルコトヲ證ス、安塞摩ハ別連伽留ノ門人ニシテ亦倫巴多ノ人ナリ、其他

泰西地金 中編卷七

教ヲ論破争辯スルヲ其師ニ勝レリト云フ。

○亞來拉多アライラドハ安塞摩ノ門人ニシテ當時ノ大智識ト稱セラルル此人三体一致ノ論ヨリシテ一旦異教ニ沈ミシガ伯拿多ベルナドノ助ニ依テ正道ニ復歸スルヲ得タリ。

○彼得倫巴多ペートルロムバルドスハ亞來拉多ノ門人ナリ彼得其師ノ手記セル書ニ因リテ教學ノ書ヲ著ハシ名ケテ先天查センテシヤ兪ユトイフ此教派ニ於テ其書ヲ尊ビ以テ神理學家ノ神語ト為シ彼得ヲ稱シテ先天查兪先生トイフ後世ノ神理學者書ヲ著ハシテ彼得ノ意ヲ説明講解スル

者多シ巴黎斯ノ大學院ニ於テハ數人ノ博士命ヲ受テ先天查兪ヲ註解スル者アリ後此書益廣ク世ニ行ハレ或ハ教法史ヲ發セントスル者アリ又ハ論理術ヲ止メントスル者アリ甚シキニ至テハ聖經ヲモ之ヲ不用ニ屬セシメントスルニ至レリ。

○亞伯多馬古那アルベルトマゴナスハ蘇亞維亞ノ人ニシテ第十三世ノ時ノ神理學ノ名家ナリ初メ希爾得跋ヘルデマハイムノ博士ト為リ後可倫及ビ巴黎斯ノ博士ト為ル諸國ノ君長亞伯多ヲ尊重シ親來テ其房ヲ訪フ者多シ亞伯多カヲ學問ニ專ニセント欲シ雨堡レインブルクノ教地ヲ以テ可倫ノ精舎ニ

泰西地金 中編卷七

代フ、亞伯多理學ノカヲ以テ兼テ物理ノ學ニ達セシ
 故ニ、當時ノ人或ハ亞伯多トヲ以テ魔術ヲ修スル者
 ト為シ、後人モ亦或ハ之ヲ信ズル者アリ。
 ○托馬亞幾拿ハ那不勒ノ貴族ニシテ亞伯多ノ高弟
 ナリ、當時神理學家ノ碩學ニシテ基督教ノ第一ノ大
 教師ノ中ニ列セリ。托馬深ク業作學術ニ勉強スト雖
 氏是ニ依テ拜神ノ務ヲ懈ラズ、日々學問業作ヲ為ス
 ノ前必ラズ崇拜ヲ行ヒ、已ニ畢ルノ後又必ラズ崇拜
 ヲ行ノ。托馬十八冊ノ大著述アリテ中ニ神道學ノ
 ヲ詳論シ、又「アトロトイヘル」歌詩ヲ作リ、以テ神道

ノ奧秘ヲ發ス。托馬又魯日ノ地ニ於テ初メテ神道ノ
 祭ヲ行フ。此祭猶今日ニ行ハル。托馬其學問ノ深遠ナ
 ルト辯論ノ雄快ナルトニ依テ天使先生ノ稱ヲ得タ
 リ。托馬ノ門人等別ニ學校ヲ建立シ、是ヲ托美士多ト
 名ク。
 ○約翰敦士一名士格多ハ、其才學托馬ニ勝レタリト
 イフ。士格多己ガ法則ヲ以テ學校ヲ立テ之ヲ士格底
 ストイフ。士格多ノ碩學ノ名諸國ニ鳴リ、今ニ至ルマ
 デ學問アル者ヲ稱シテ敦士トイフニ至ル。
 ○神理學ノ大家ハ當時皆盡ク世人ヨリ尊稱ヲ得タ

リ。則チ士格多ハ賢智ト稱セラレ。伯拿多ハ無可議ト
稱セラレ。亞勒山得德亞勒ハ火光ト稱セラレ。羅熱巴
可ハ奇俊ト稱セラレ。

○第十三世ノ中葉ニ於テ索尔盆ノ羅伯神理學ノ一
派ヲ興シ。是ヲ索尔盆ノ教派ト名ク。此教派中ヨリモ
許多ノ學士ヲ出セリ。此教派ハ殊ニ法論ヲ為ス。ヲ
務メ。朝ノ六時ヨリ暮ノ六時ニ至ルマデ論辯ヲ為ス。
應答師ハ十二時ノ間法椅ニ坐シ。以テ諸生ノ法問ニ
答フ。其間常ニ往復論辯シテ毫モ他事ヲ顧ルノ暇ナ
シ。我等今此教士等ノ勉強奮發ヲ想像スルハ殆ン

ド人ヲシテ企及ブベカラザルノ思ヲ起サシム。

○此神理學即帖阿魯侃ニ反セル一ノ神學アリ。其名
ヲ密斯底思トイフ。此教派ハカヲ法論ニ盡ス。ヲ為
サズ。唯聖經ヲ尊信シテ善徳ノ模範ヲ其中ニ取ルヲ
主トス。故ニ此教派ノ趣意ハ上帝ヲ尊奉スルト。躬ヲ
謙遜スルヲ以テ第一ノ務ト為ス。此教派ノ説亦能ク
信ヲ世人ニ取り。此説ニ從フ者頗ル多ク。民ノ心ヲ改
メテ善道ニ歸セシメシ。ハ却テ廣拉士底基ヨリ多
シ。此教派ノ中ニ於テ托馬亞儉丕ヲ以テ最傑出セリ。
トス。此人ハ第十五世ノ時ノ人ニテ。其著ハス處ノ教

學ノ書ハ世人皆之ヲ實用シ、諸國ニ於テ盡ク之ヲ翻
譯シ、翻刻ノ數二千種ノ多キニ至レリ、此人ハ神理學
ノ名教士中ニ於テ最近代ノ人ナレバ、人ノ其名ヲ稱
スルヲ亦最多シ、托馬ノ遺骨ハ、聖亞克尼^ノ道院ニ葬
リシガ、一千六百七十二年、之ヲ斯窩爾^{スウアル}ニ改葬セリ、

第七十六

諸學諸術ノ狀

○凡ソ天下ノ人、其始メハ生活ニ關クベカラザルノ
諸物ヲ要求シ、己ニ之ヲ得ルノ後ハ更ニ百物ノ美麗
ヲ欲シ、其上ニ又其心ヲ快クシ、己ガ人品ヲ都ニセン

為メニ、娛樂ノ事ニ心ヲ用フルニ至ルハ自然ノ勢ナ
リ、中古ノ時ニ於テ娛樂中最盛ナリシハ詩學ニシテ、
殊ニ貴族ノ輩多ク之ヲ好メリ、凡ソ人憂苦鬱悶ノ時、
又ハ戰場ニ出テ疲勞ヲ極メ危難ニ遇ヒシ後ハ、必ラ
ズ詩ニ因テ其心ヲ引起シ、以テ其氣ヲ開暢ス、詩學ノ
為メニ助ケヲ為セシハ殊ニ十字軍ヲ大ナリトス、十
字軍ノ徒、希臘ノ碩學ニ逢フテ其高論ヲ聞キ、又所謂
聖地ニ至リテ東國ノ府庫ヲ觀、往昔救世主ガ嘗テ其
地ヲ周游セシヲ想ヒ、又行賽者ガ信心ノ為メニ此
地ヲ經過シ、騎士等ガ教門ノ為メニ武勇ヲ奮ヒシ狀

ヲ目撃シ、殊ニ此地ノ事ノ西方諸國ニ貴重ナル關係
 アルヲ知リ、是ヲ以テ豐饒ナル作詩ノ料ト為セリ。
 ○法蘭西ノ南方及ビ西班牙ノ民ハ、其想像力他國ノ
 民ト勝レ、早ク民間ノ語ヲ以テ詩ヲ作レリ。此詩ヲ作
 ル者ヲ「トロバドウル」ト云フ。法蘭西語ニハ「トロウウ
 ル」ト云フ。祭禮又會食アルキ、此詩人、騎士ノ城中ニ來
 リ、其詩ヲ琴ニ和シテ之ヲ歌ヒ、以テ衆人ヲ娛マシム。
 ○此技藝、大ニ人ノ心ヲ娛マシムルニ足ルヲ以テ、德
 意志國ニ於テモ亦盛ンニ之ヲ行フ。德國ニテハ此詩
 人ヲ「リイベスゲザンゲルト」ト云フ。此歌曲ノ中ニ於テ

古代最モ人ノ稱スル者ヲ「ニールベルンゲン」ト云フ。其
 時代其作者共ニ詳ナラス。
 ○詩學ニ次テ盛ンニ興リシハ建築術ニシテ、第十二
 世ノ中葉ニ於テ既ニ最高ノ地位ニ進メリ。草木ノ花
 葉又ハ動物ノ像ヲ彫鏤セルヲ「ゴット特ノ建築術ト云フ。
 此術ハ其始亞刺伯人ノ創案セル者ナリシカドモ、德
 意志人ノ力ニ依テ完備スルヲ得タリト云フ。
 ○當時ノ建築ノ大家ノ中ニ於テ「バウゼン巴丁ノ「エルツェン耶尔尹最世
 ニ名ヲ知ラル。此人一千二百七十七年、スワット士刺斯堡ノ高
 塔ヲ作ラントシテ其工ヲ初メタリ。此塔極クテ崇大

ニシテ其高廿四百九十尺。之ヲ工作スル一一百六十一年。一千四百三十八年ニ至リ。可倫ノ約翰復都ノ手ヲ以テ落成セリ。又一千二百四十八年大教長霍克^{ホックステック}的^{リック}甸^{リック}ノ根^{リック}拉^{リック}德^{リック}可^{リック}倫^{リック}ノ大寺觀ヲ創立セシガ。之ヲ工作スル一二百五十年ニシテ。奏樂場ノ全部トシキ。^グ報^ク分^クノ名^クノ半部ヲ落成セシノミナリ。此ノ如キ偉大ノ工作ヲ觀ルハ。吾等ノ祖先ガ上帝ノ為メ教法ノ為ニ勞苦ト費用トヲ惜マザリシヲ知ルニ足レリ。

○歌謠建築ノ術ハ此ノ如ク其威ヲ競ヒシカドモ。真ノ學術ニ至テハ却テ少シセ其歩ヲ進ムル一ナシ。其

故ハ。中古ノ時ノ民ハ皆軍務ニ從事シ。靜定シテ其業ヲ營ム者ナシ。此事諸學諸術ノ為ニ妨害ヲ為ス一少ナカラズ。獨リ甲利曼大王。深ク學術ノ進歩弘行ヲ欲シ。大ニ為ニカヲ用ヒシト雖也。其業王ノ生涯ニ止マリ。王ノ没スルニ及ビ。王ノ志ヲ繼テ其事ヲ完成セントスル者ナシ。是ニ由テ世務ニ從事スル諸國ノ民。大抵不學蒙昧ニシテ書ヲ讀ミ字ヲ書スル一ヲ知ル者甚罕ナリ。偶之ヲ知ル者アレバ衆之ヲ推シテ碩學ト為ス。或ハ深ク學術ニ通ジ。殊ニ數學ト物理學ニ達スル者アレバ。衆人驚怪シテ魔術ヲ修スル者ト為シ。其

性命ヲ保ツル能ハザルノ恐アリ。當時貴民賤民共ニ
開化ノ度猶低キニ依リ。異端ニ迷ヒ。魔術ヲ信ズル者
多シ。苟モ此ノ如キ者アレバ。教長教士其罪ヲ論ジテ
之ヲ焚殺ス。是ニ依テ數學理學等ノ學術ニ通ゼル者
モ。或ハ誤テ此刑ニ罹ルコトアリ。

○然ルニ教法ノ徒ハ。是ト異ニシテ學術ニ通ゼル者
多シ。故ニ當時ノ教士ハ大抵學士ヲ兼シ者ナリ。殊ニ
道院ハ。頽敗ヒル學術ヲ保全スルノ所ト為シ。修道士
タル者常ニ古本ヲ謄寫スル為メニ自由ノ時間ヲ定
メ。以テ古書ノ散佚ヲ防キ。書庫ヲ以テ道院ノ第一ノ

美飾トヒリ。修道士ハ亦皆後生ノ教導スルヲ務メト
為シ。道院中ニ學舎ヲ開キ。以テ少年ノ子弟ヲ教フ。然
レモ學校ノ法未全備セズ。又書籍ニ乏キヲ以テ教學
ノ妨礙ヲ為ス。少ナカラズ。偶希臘人ノ伊大利ニ居
テ遷ス者アリ。多ク古代ノ書ヲ載シ。又能ク後生ノ為
メニ其書ヲ講解ス。是ヨリ學問ノ道再光輝ヲ發シ。漸
々其惠ヲ四隣ニ及ボス。コトヲ得タリ。

第七十七 大學院ノ始

○我持人佛郎克人倫巴多人ノ羅馬ニ侵入スルニ當

リ。古賢ノ珍書教門ノ寶籍大抵散佚シ。西國ノ地ニハ
 文獻ノ微ヌルニ足ル者甚稀ナリ。其後哥羅味ノ後嗣
 ノ時。及ビ倫巴多人ガ威ヲ振ヒシ時ニ至リ。法蘭西德
 意志伊大利ノ地。兵馬ノ衝ト為リ。學問ノ道全ク地ヲ
 掃ヒ。教士ノ學徳アル者ハ。盡ク避テ英倫ト阿爾蘭ト
 ニ遁ル。中古ノ時此二國ハ。荒漠遐僻ノ地ニシテ人皆
 方今ノ西伯利^{シベリア}ノ如ク看做ヒシ處ナリ。幸ニシテ甲利
 曼亞弗勒^{マン・アル・レト}ノ兩豪傑世ニ出テ。雄武ノ資ヲ以テ兼テ文
 學ヲ護持シ。古道ヲシテ再世ニ明カナルヲ得ヒシ
 タタリ。兩大王ノ時碩學鴻儒輩出シ。許多ノ書籍ヲ著

述シ。又能ク古書ヲ寶護シテ之ヲ失フコトナカラシム。
 故ニ伊大利ノ地ノ如キハ。德國ノ皇帝ト久ク干戈ヲ
 接ヘシト雖^レ。猶哥^コ爾^ル故^ノ道院^ニ哥^コ爾^ル尼^ニ流^ル達^ス西^ノ多^ク
 書ヲ藏シテ之ヲ失フコトナシ。達西多ハ羅馬ノ史家ニ
 シテ。其著ハス處ノ羅馬史ハ天下無双ト稱セラレ。其
 後伊大利ト法蘭西ハ兵亂久シク治マラズシテ都邑
 荒頽スル者多カリシガ。英吉利ト德意志ハ道院ノ學
 校盛ニ行ハレ。是ニ由テ歐羅巴ノ宣教師ハ大抵北方
 ノ地ヨリ起ル者多シ。
 ○第十二世ノ始ニ於テ。伊大利ニ二人ノ碩學出テ大



ニ其道ヲ行フ。一ヲ公士フンス但丁チニス亞弗利加アリカ那ノトイヒ。一ヲ以ル尔涅流ネリスト云フ。公士但丁ハ庇尼忒ビネチクトノ教派ノ學者ニシテ撒勒摩サレモニ於テ醫學ヲ開キ、以尔涅流ハ補羅義ボロニイニ於テ法律學ヲ開キ以テ生徒ヲ教授ス。二人ノ英名諸國ニ鳴リ、歐羅巴ノ少年四方ヨリ來集マル者其數ヲ知ラズ、或人ノ說ニ生徒ノ補羅義ニ來ル者二萬人ニ餘リ、各其國ヲ以テ羣ヲ分チ、又其學師ト管長トヲ撰ブノ權ヲ執レリ、是ヲ大學院ノ始トス、是ニ嗣デ巴黎斯ニ大學院興リ、分ツテ四科ノ學ヲ教授ス、所謂四科ノ學ハ、一ヲ神學ト為シ、ニヲ理學ト為シ、三ヲ法學ト

為シ。四ヲ醫學ト為ス。教師ヲ名ケテ「マダストリ」ト云フ。生徒ハ皆年ヲ限り來リテ業ヲ學ブ、一科ノ外更ニ他ノ學科ニ通ズル教師ヲ「バックラウレイ」ト云フ。凡少年ノ學者已ガ學問ノ品位ヲ尊クセシト欲スル時ハ「テシス」ヲ行ハザルベカラザル「トス」テシス「トハ己ガ自得スル說ヲ防守スル義ニシテ、諸方ノ碩學ヲ招キ以テ己ガ說ヲ非難セシムルナリ、是ヲ行フハ其儀式甚盛ニシテ來リ觀ル者常ニ羣ヲ成スナリ、其議論甚美ニシテ能ク人ヲ感ズルニ足ルハ、大學院ヨリ「ドクトル」ノ稱号ヲ許シ與フ、此稱号ヲ得タル後初

ノテ醫者ト為リ代言人ト為ルヲ得ルナリ。此法ハ今日ニ至リテモ猶此ノ如シ。
○大學院ノ生徒ノ最モ金ヲ費サザルベカラザルハ寫本ヲ買フ價ナリ。一ノ伊大利人李浮^{リヒッス}ノ著書ノ寫本一部ヲ一百十^ココロ^ン貨幣ノ名^大約^和ノ價ニテ買シ者アリ。他ノ雜費ハ是ト異ニシテ甚廉價ナリ。一千二百七十八年亞威農^{アビ}ノ教長其教地ヨリ六人ノ教士ヲ補羅義ノ大學院ニ入レ。五年ノ間法律ヲ學バシム。此教士每一人ノ學費各二十四^リノルス^大約^十二^ギルデン^ヲ送レリ。教士等金ノ少キヲ憂ヒ。更ニ幾多ノ

學費ヲ増サン^トヲ求ム。巴黎斯ノ教師是ヲ不可ナリトシテ謂ヘラク。神學ノ^トクトル^ハ十五^リブル^スノ金アラバ。其身分ニ應ズルノ生活ヲ為ス^トヲ得ベシト。是ニ依テ觀レバ。補羅義ノ大學院ニ在ル生徒ノ一年衣食ノ大概ヲ知ル^トヲ得ベシ。此時代ノ^トヲ以テ之ヲ觀レバ。今日貨幣ノ品位ノ低下セルハ實ニ驚クニ堪^フベシ。當時德國ニテ高崇ナル禮拜堂ヲ建シニ第一等ノ工人ノ價^ヲラスペン^ニング^古代^ノ銅^ニ過ギズトイフモ。貨幣ノ品位ノ今日ニ異ナル故ナリ。
○補羅義巴黎斯ノ大學院其成功ヲ奏シ。大ニ教學ノ

益。為スニ依リ、諸國、君長教士富民等各競フテ之
 建立セント欲ス。是ニ於テ第十三世、時ニオキスホルド阿斯塔
 巴土亞、大學院興リ、第十四世、時羅馬、巴拉克維也
 納、巴非亞、堪比日海得山、大學院興リ、第十五世、時
 戈拉告、來此錫盧宛弗來堡、因我斯達聚平彦烏布薩拉
 哥本哈干等、大學院興ル。此ノ如ク諸國、大學院連
 續シテ起リ、大ニ教育ノ進歩ヲ為セシト雖、學問ノ
 為メニ殊ニ大益ヲ為セシハ、印書法ノ發明ヲ以テ第
 一トス。此事ハ猶第九十三節ニ於テ之ヲ説クベシ。

第七十八

刑法 秘審院

○古代ノ日耳曼人佛郎克人ノ刑法ハ甚簡易ナル者
 ニシテ別ニ法律ノ書ナク、唯犯人ノ罪ヲ訊シ、其罪ニ
 應ジテ相當ノ刑ヲ施スノミナリ。其後人民ノ數蕃殖
 シ衣食ノ道一變シ、貿易ノ利開通シ、人間ノ求需益増
 加スルニ從ヒ、人民ノ變詐百出シ、其爭訟亦從テ多ク
 遂ニ古來ノ法ヲ以テ犯人ノ罪ヲ裁判スルヲ能ハ
 ルニ至レリ。大學院ノ興ルニ及ビ、才俊ノ少年ボロイ補羅義
 ニ於テ羅馬ノ法律ヲ學ビ、當時刑法ノ事ニ論ジ及ビ、
 遂ニ「ベームゲリフ」即チ秘審院ヲ建設スルニ至レ

リ。此秘審院ハ其首院ヲ駝多門^{ドルトモン}ニ置キ、大審官一人審官七人ヲ以テ院務ヲ行フ。駝多門ハ可倫ノ教大長ノ管轄ニ属セリ。此教大長ハ惟西發里^{ウエストハリア}ノ公兼皇帝ノ代人トシテ此地ヲ治ムル者ナリ。秘審院ハ惟西發里ノ全部及ビ萊因河傍ノ諸邑ニ支院ヲ置キ、皆同等ノ權ヲ以テ裁斷ノヲ行フ。大審官審官ノ外又秘審院ニ坐スル所ノ審官アリテ審院建立ノ趣意及ビ審判ノ法ヲ知レリ。故ニ此審官ヲ或ハ知官ト稱ス、審官ト為ル者ハ先始メニ誓約ヲ立テ、審院ノトハ悉ク秘シテ決シテ人ニ語ラズ、審官相逢^{アヒ}ハ互ニ唯暗号ヲ以

テ其意ヲ通知スルノミナリ。其他都邑ニハ許多ノ審官アリテ、陰ニ其職ヲ奉ジ、民ヲシテ其審官タルヲ知ラザラシム。之ヲ不知官ト稱ス。秘審院ニ於テ審判スル所ノ罪ハ背教、魔術、盜賊、兇殺ノ諸惡ニシテ、其罪人ヲ鞫スルキハ、知官不知官皆出テ之ニ臨ム。人ノ罪ヲ訴フル者ハ陰密ニ之ヲ行フ。然レ凡之ヲ審判スルハ公然訟庭ニ於テ之ヲ行ヒ、大審官一人審官六人合セテ七印ヲ捺セル帖ヲ以テ被告人ヲ召ス。審院ノ使役、其帖ヲ齎シテ被告人ノ家ニ就テ之ヲ召シ、或ハ傍近ノ小寺院ニ就テ之ヲ召ス。被告人屢召スト雖凡來

ラズ、或ハ原告人ニ對シ、辭ノ以テ防クニ足ラザル片
 ハ審官及ビ知官之ニ死刑ヲ命ズ、死刑ニ行フ者ハ之
 フ木上ニ縊リ小刀ヲ以テ其体ヲ刺シ、傍ニ罪狀ヲ記
 セル帖ヲ置キ、以テ正道ノ刑罰ニ行ハレシ徴ト為ス。
 或ハ稀レニ審院ニテ罪ノ定マリシ罪人、其刑辟ヲ適
 ル、トアレバ、遂ニ必ラズ審官又ハ知官ノ手ニ落テ
 テ刑罰ニ行ハルハナリ。
 ○秘審院ハ專威權ヲ以テ審判ヲ行ヒ、其捕獲ト為ル
 ノ罪人ハ決シテ其性命ヲ保全スルコト能ハザル如キ
 ニ至リシカバ、罪惡ヲ為ス者大ニ此審院ヲ畏レ、一時

ハ兇人迹ヲ屏ムルニ至レリ。然レモ是ヨリシテ大審
 官ノ威權大ニ增長シ、意ニ任セテ刑罰ヲ行ヒ、屢誤ッ
 テ其罪ニ非ザル者ヲ刑セシメアリ。是ニ依テ國人皆
 秘審院ノ弊害多キヲ憂ヒ、新夕ニ室審院トイフ者ヲ
 起シテ秘審院ニ代フ。後甲列第五頭審院ヲ建ルニ及
 ビ、秘審院遂ニ廢ス。
 ○是ヲ以テ觀ル片ハ、吾儕ノ祖先、民ノ安全ヲ保護ス
 ル為メニ其心カヲ勞ヤシコト亦甚シトイフベシ。吾儕
 今日良政治ノ下ニ生レ、逸樂安穩以テ此生ヲ送ルハ
 真ニ幸福ノ至ト云フベシ。

第七十九

法教審院

○第十三世ノ時、因^{イシコイシナイ}幾細底、即チ法教ノ審院興ル。此審院ハ國民ノ信奉セル教法ヲ検査シテ、異教ノ徒ノ其中ニ隱伏スルヲ防グガ為メニ設ル者ナリ。一千一百八十三年、教王魯西^{ルシヤ}約第三ト皇帝弗勒得力赤鬚ト議シテ、此審院ヲ立テ、拉的蘭^{ラッラン}ノ第三次ノ會議ノ時ニ其契約書ヲ定メシ者ナリ。

原註ニ曰ク、教王ノ居所ヲ拉的蘭ト云フ。第十二世第十三世ノ時、拉的蘭ニ於テ教法ノ會議ヲ開ク。

總テ四回ナリ。

○第一回ノ會議ハ、教王ト顯利第四ト任官ノ争ヲ起セシ片ニ之ヲ開ク。

○第二回ノ會議ハ、一千一百三十九年教王以諾森第二ノ開ク所ニシテ教法總會ノ第十次ノ會議ナリ。此時教長ノ來リ會スル者一千人、彼得特^{ペトル}不^ブ賴^{ライ}ノ教學ヲ禁ジ、又拳法^{我儘勝手}ノ行フ者ト假戰ノ戲ヲ為ス者ハ教門ヲ放逐スベシト云フ。テ定ム。是ニ於テ三十ノ教士ヲ撰ンテ、民ノ禮義風俗ヲ改メシメ、又利錢ノ一ニ就テ法則ヲ定メ、以テ貸借ノ

事ヨリ起レル害ヲ防グ。

○第三回ノ會議ハ、一千一百七十九年、教王亞勒山大第三ト、皇帝弗勒得力赤鬚ト之ヲ開キ、以テ亞昆然士ト、ゼンマ 空田士ワレデンノ教學ヲ禁ズ、アムビ 亞昆然士ハ里昂ト云ヘル小邑ヨリ其名ヲ取り、空田士ハ里昂ノ商人彼得トリスワルド 究ドル多ヨリ其名ヲ取レリ、其他此會議ニ於テ左ノ法ヲ定ム、曰ク凡ソ教士ハ「ベネヒシイ」一個ヨリ多クヲ得ベカラズ、ベネヒシイハ官 禄アル職務ナリ、年未ダ三十二至ラザル者ハ祭司ニ任ズルヲ得ベカラズ、

○第四回ノ會議ハ、一千二百十五年ニ在リ、此時ハ

諸國ノ帝王ノ使者ハ人來リ會ス、其議定スル條件ノ内ニ、ルノ法教ヲ信スル輩ハ一年ニ一次、己ガ罪惡ヲ懺悔ヒザルベカラズ、又教祖蘇生ノ祭ノ間、一回ハ晚餐ノ禮ニ赴カザルベカラズト云フアリ、當時基督教法ヲ奉ズル者、此ノ如キ尋常ノ禮節モ亦之ヲ怠リシト見エタリ、此會議ノ終ニ、教王以諾森第三、佛郎士斯、干ト多米尼干ドミニカンノ教會ヲ開クヲヲ允許セリ、

○法教審院ノ首座ヲ占ル者ハ、教長ナリ、其他教門ノ徒、世務ノ士、此院ノ審官ト為ル者多シ、世務ノ審官ハ

年々己ガ管下ノ地ヲ巡リ、民ニ異教ニ迷フ者アルヤ
 否ヤヲ檢ス。若シ形迹ノ疑シキ者アリテ人ニ告發サ
 ル、ル、中ハ之ヲ教諭シテ正教ヲ羅馬教ニ歸セシメ或ハ
 直ニ之ヲ罰スルコトアリ。然レモ最初ハ猶重罪ニ處セ
 ば再異教ニ陷ルニ及ビ。是ヲ世法ノ刑官ニ付シ。生ナ
 カラ之ヲ焚キ、其産財ヲ以テ教門ニ没入ス。
 ○法教審院ハ固ヨリ唯教門ニ害アルノ徒ヲ除クガ
 為ニ建シ者ナルニ。諸國ノ君長却テ其力ヲ助クル者
 ハ何ゾヤ。蓋シ此時民ノ異教ヲ唱フル者ハ多クハ其
 自主ノ心思ヲ伸サント欲スルヨリ出シ者ナリ。所謂

自主ノ心思ナル者ハ、教王ノ之ヲ惡ムノミナラズ。君
 長モ亦之ヲ快シトセザルヲ以テ、共ニ力ヲ協セテ之
 ヲ滅ボサントセシ者ナリ。然レモ歐羅巴ノ諸國ニ於
 テ悉ク此審院ヲ建シニハ非ズ。羅馬ハ教王ノ居所ナ
 レモ、法教審院ノ律至テ寬ニシテ、西班牙ノ審院ハ其
 法却テ嚴酷ナリ。西班牙ニテハ中古ノ末、此地ノ王侯
 其民ノ權ヲ抑ヘ、教王ノ威ヲ制シ、以テ自己ノ威權ヲ
 張ラントセシ時ニ此審院ヲ建立セリ。威尼斯ヴェニスニ於テ
 ハ最モ法教審院ヲ重ンジ。統領威尼斯ハ共和政治ナリニ於テ
 臨ミテ事ヲ裁決ス。德意志ニ於テハ、此時教法ニ諸派



ノ異アリト雖氏。遂ニ此審院ヲ建ルコトナシ。一千二百
 三十一年地^{ナリ}里^ル尔^ル。德國ノ大教長其首府ニ於テ會議
 ヲ開キ。異教ヲ奉ズルノ徒三人ヲ訊鞠シ。共ニ焚絞ノ
 刑ニ行フ。其内一人ノ婦人アリ。刑ニ臨ミ悲号シテ曰
 久。吁。盧西希^{異教ヲ唱ハシ}。不幸ニシテ暴人ノ為ニ。天
 上ヨリ擠倒セラレタリト。此事ハ久ク世ニ傳ル所ナ
 レ氏。余ハ甚信シ難キコト為ス。然レ氏此時ノ史ヲ閱
 スルニ。德國ニ數派ノ異教行ハル其ハ地^ハ里^ハ爾^ニ行
 身レ。魔神ヲ崇拜スル者ナリ。其二ハ其教ヲ奉スル者
 ハ男婦皆神聖ト為ルベシト云ハル者ナリ。其三ハ羅

馬ノ教長ヲ棄テ。別ニ其教ノ教長ヲ立テ其教ヲ信ズ
 ル者ハ一人毎ニ十八^{ヘン}ニシテ^{古貨幣ノ名大割ヲ}。我新貨一厘半余ヲ
 教長ニ獻ゼシム。此ノ如キ異端ノ説アリシカドモ。法
 教審院ノ力ヲ假ラズシテ皆自然ニ消滅セリ。馬爾堡^{マルブルグ}
 ノ根^{コンラド}拉^{ラド}德^ド。德國ニ於テ法教審院ノ審官ト為リシガ其
 國ノ教長等之ヲ不可ナリトシ。其事ヲ羅馬ニ訴ント
 ス。德國ノ騎士等亦之ヲ怒リ。根拉德ヲ途中ニ要撃シ
 テ之ヲ殺ス。教王此事ヲ聞クト雖氏之ヲ知ラザル者
 ノ如シ。是ニ依テ德國ニテハ竟ニ法教審院ヲ興サズ
 シテ止ム。

泰西史鑑中編卷之七終

Faint vertical text columns within a rectangular border, likely bleed-through from the reverse side of the page.

